

一輪管理機

取扱説明書

KMS600
KMS500



ご注意

- ◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
- ◆記載内容を十分理解してから、一輪管理機の取扱いを開始してください。
- ◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できるように一輪管理機の近くに保管してください。



一輪管理機重要ポイント

1. 一輪管理機や作業機を点検・調整するときは、
必ずエンジンを止めてから行います。
2. 後進をするときは、
スピードを下げ、背後の障害物に注意します。
3. ほ場への出入りや、車への積み・降ろし、移動のときは、
必ずロータリの回転を止めます。
4. ほ場への出入りや、車への積み・降ろしは、
上りは前進、下りは後進で行います。
5. 作業や移動をするときは、
急発進・急旋回をしません。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも、本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を  を付して説明のつど取り上げています。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

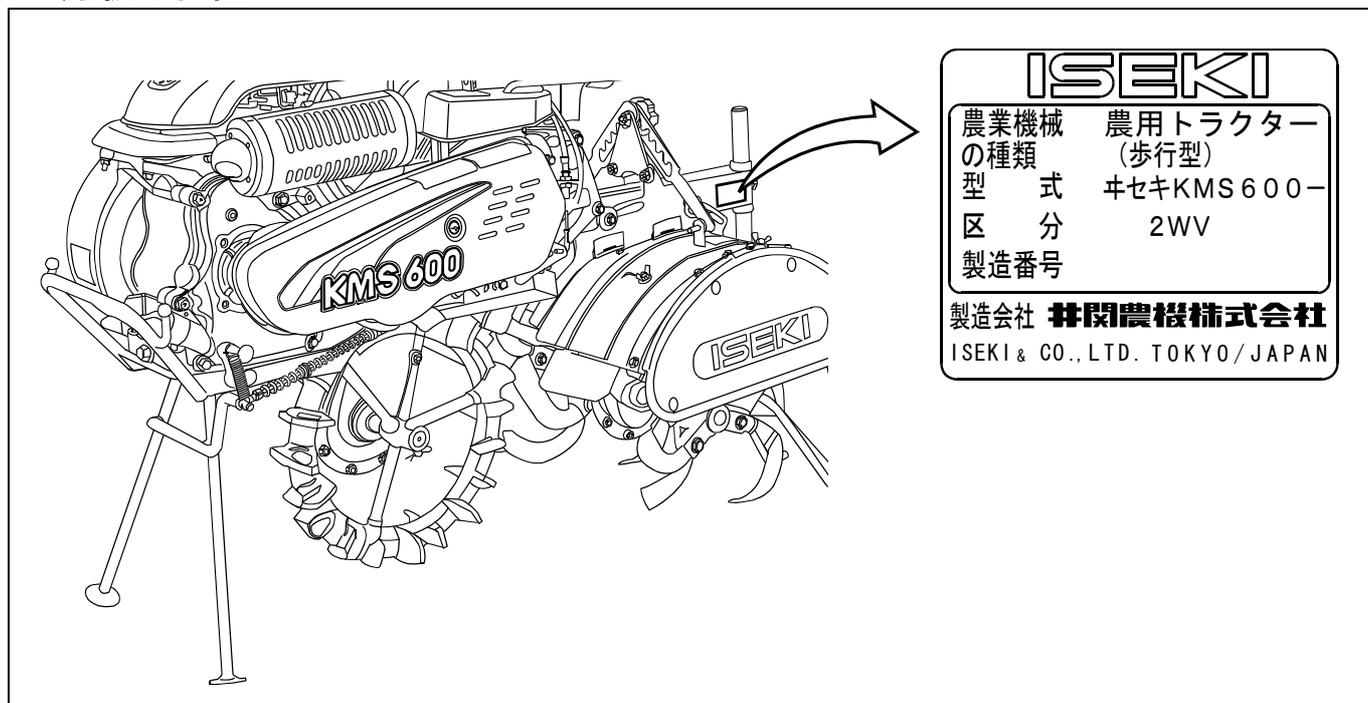
重要なお知らせ

- このたびは、中セキ一輪管理機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、中耕・培土・溝掘り・土入れなどの管理作業機として使用してください。改造や使用目的以外の作業はしないでください。改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
- 井関農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、中セキ一輪管理機（以降管理機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり通常必要とする注意または、用心をしないで生じた損害または、傷害に対しては一切責任を負いません。
- この管理機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や管理機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。よって、管理機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および管理機本体に表示している事項に限らず、安全対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 管理機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることは、いうまでもありませんが、他方、日常の取扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- この管理機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この管理機を国外へ持ち出した場合に当諸国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接、間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の管理機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本管理機を譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を管理機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付しているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は管理機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本管理機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、管理機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複製、コピー、翻訳してはならず、または読み取りのできるいかなる電子装置や機械に転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の一輪管理機について併記しています。
お買いあげいただいた草刈機の型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



■上記（例）の販売型式名 KMS600-2WV

■装備内容

型式記号	装備内容
KMS	600 最大馬力; 5.4ps
	500 最大馬力; 4.1ps

区分記号	装備内容	
	走行部	作業部
S	一輪カルチタイヤ	標準ロータリ (中耕爪)
2W	一輪二輪兼用カルチタイヤ	標準ロータリ (中耕爪)
2WV	一輪二輪兼用カルチタイヤ	Vカットロータリ (中耕爪)
CW	一輪クローラ	標準ロータリ (中耕爪)
CWV	一輪クローラ	Vカットロータリ (中耕爪)

警告表示について

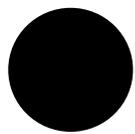
本草刈機を安全にお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。また、草刈機で危険が想定される箇所または、その付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

 危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は、重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は、重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

	注意の喚起	この記号は指示を守らないと危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。(右図の場合は爆発注意)	
	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。(右図の場合は火気厳禁)	
	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためには、この行為が必要です。(右図の場合は、ヘルメット、メガネ着用)	

目次

重要なお知らせ	i
型式と装備内容について	ii
警告表示について	iii
目次	iv

4. 作業前点検

4.1 エンジンを始動する前に	14
-----------------	----

1. 使用上のポイント

1.1 使用上のご注意	1
1.1.1 運転者の条件	1
1.1.2 作業をする前に	2
1.1.3 走行する場合は	3
1.1.4 トラックへの積み・降ろし	4
1.1.5 作業中は	5
1.1.6 定期点検・整備について	6
1.1.7 格納・保管時は	8
1.2 警告ラベルについて	9
1.3 警告ラベル貼付箇所	9

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証	10
2.2 サービスネット	10
2.3 銘板の位置	10
2.4 補修用部品の供給年限について	10

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称	11
3.1.1 全体	11
3.1.2 レバー関係	12
3.1.3 走行部	13

5. 運転のしかた

5.1 ハンドル調整のしかた	16
5.2 エンジン始動と停止のしかた	16
5.2.1 エンジン始動のしかた	17
5.2.2 エンジン停止のしかた	17
5.3 スタンドの使い方	18
5.3.1 センタスタンドの立て方	18
5.3.2 センタスタンドの 収納のしかた	19
5.4 トラックへの 積み・降ろしのしかた	19
5.4.1 アユミを使用しての 積み・降ろしのしかた	20
5.4.2 ロープのかけかた	21

6. 作業前の準備

6.1	管理機の準備	22
6.1.1	2W型車輪の組替え (2輪→1輪)	22
6.1.2	2W型フロントカルチ 作業の場合	24
6.1.3	CW型 接地面の調節	24
6.1.4	ロータリカバーの調節	25
6.1.5	ハンドル調節のしかた	26
6.2	標準中耕爪の準備	27
6.2.1	爪の回転方向	27
6.2.2	標準ロータリの 爪のセット方法	27
6.2.3	Vカットロータリの 爪のセット方法	29

7. 作業のしかた

7.1	走行速度と適応作業	30
7.1.1	KMS600-S, 2W, 2WV, KMS500-S, 2WV の場合	30
7.1.2	KMS600-CW, CWV の場合	30
7.1.3	変速のしかた	31
7.2	ほ場の出入り	31
7.3	旋回のしかた	32

8. 点検整備

8.1	定期点検・整備箇所一覧表	33
8.2	油脂類の注入のしかた	35
8.2.1	各部の注油のしかた	36
8.3	各部のオイル点検・交換のしかた	37
8.3.1	エンジンオイル	37
8.3.2	ギヤーオイル	38
8.4	エンジン各部の掃除と点検	39
8.4.1	点火プラグの点検のしかた	39
8.4.2	エアクリーナの 掃除のしかた	40
8.4.3	燃料フィルタの 掃除のしかた	40
8.4.4	冷却風吸引口の 掃除のしかた	41
8.5	ワイヤの点検と調整のしかた	41
8.5.1	主クラッチレバーの 調整のしかた	41
8.5.2	上下レバー、 ロータリクラッチレバーの 調整のしかた	42
8.5.3	車速副変速レバーの調整	42
8.6	増締め力所	42
8.6.1	爪取付ボルト	42
8.6.2	ロータリフレーム 取付ボルト、ナット	43
8.7	走行部の点検と調整	43
8.7.1	トルクリミッタが 作動したとき	43
8.7.2	クローラの点検と調整	44
8.8	その他の点検力所と交換のしかた	45
8.8.1	燃料ホースの点検と交換	45
8.8.2	電気配線の点検と修理	45
8.8.3	中耕爪の点検と 交換のしかた	46

9. 格納時の手入れ

- 9. 格納時の手入れ処置…………… 47
 - 9.1 本機の手入れのしかた…………… 47
 - 9.2 エンジンの手入れのしかた… 48

10. 不調時の診断と処置

- 10. 不調時の診断と処置…………… 49

11. 付表

- 11.1 主要諸元…………… 51
- 11.2 付属品一覧表…………… 52
- 11.3 推奨潤滑油一覧表…………… 52
- 11.4 主要消耗部品…………… 53
- 11.5 注文部品の紹介…………… 53

1. 使用上のポイント

本一輪管理機を正しくご使用になるために必要な情報を記載しています。

1.1 使用上のご注意

本商品を正しくお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、正しく活用してください。記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

1.1.1 運転者の条件

警告



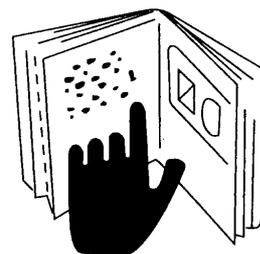
- こんなときは、運転をしないでください。
- 過労、病気、薬物の影響、その他理由により、作業に集中できないとき
 - 18才未満の人
 - 妊娠しているとき
 - 酒を飲んだとき
- ※ 誤動作しやすく、思わぬ事故の原因になります。



- 作業に適した服装を着用してください。はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。
- ※ 機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



- 機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。取扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。
- ※ 借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



1.1.2 作業をする前に

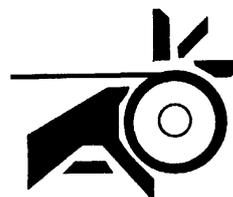
危険



- くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
 - 燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なってください。
- ※ 守らないと、燃料に引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。



- 一輪管理機を運転する前に保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。
- ※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



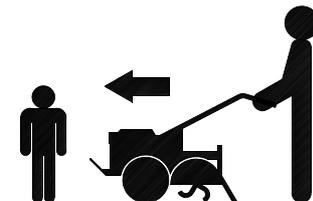
警告



- 無理無駄のないゆとりある作業計画をたててください。
- ※ 守らないと、あせりなどから傷害事故を引き起こすことがあります。



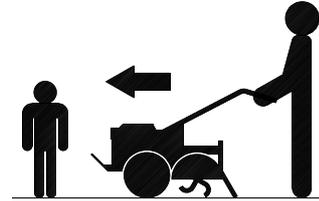
- エンジンを始動するときは、すべての変速レバーやその他のレバー類の位置と周囲の状況を確認してから行なってください。
- ※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



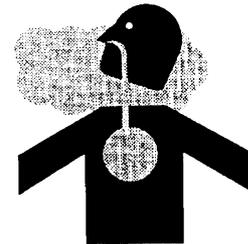
⚠ 注意



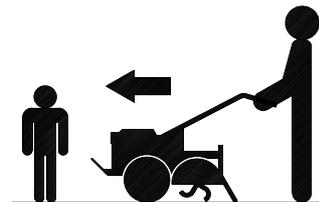
発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。
特に子供に注意してください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等では、エンジンを始動しないでください。
※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



点検・整備は必ず行なってください。
特に、ロータリ爪、主クラッチ、スロットルレバー関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ロータリ爪の飛散やクラッチが切れないことがあります。
※ 守らないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因となります。

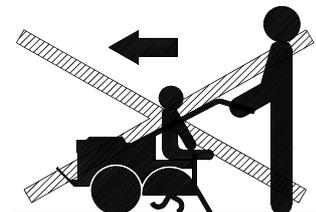


1.1.3 走行する場合は

⚠ 警告



一輪管理機には、いかなる場合でも、絶対に人を乗せないでください。
※ 守らないと、人が転落するおそれがあります。



- 高速での急旋回、凸凹道や坂道での急旋回はしないでください。
- 坂道を上り下りするときは、低速でゆっくりと行き、坂道の途中では決して主クラッチをにぎらないでください。

※ 守らないと、スリップや転倒事故を引き起こします。

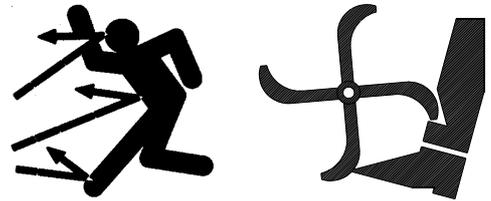


 警告



作業中以外は、ロータリ変速は「N」にしてください。

※ 守らないと、ロータリ爪が回転して、土等の飛散や足の巻き込みで傷害事故を引き起こします。



1.1.4 トラックへの積み・降ろし

 警告



積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「1速」または「R」位置にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行なってください。

※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

- 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分ある、スリップしないアユミを使用し、積み込みは「前進」、降ろす場合は「後進」で作業してください。
- アユミは、基準以上のものを使用し、一輪管理機と作業者の重量でアユミが傾かない場所を選んでください。
- アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。
- 万々に備えて、一輪管理機の周りには人を近づけないでください。

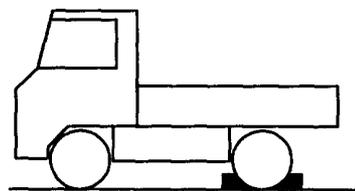
※ 守らないと、転落事故の原因になります。

〈アユミの基準〉

- ・ 幅：30cm以上
- ・ 強度：200kg以上（1本当り）
- ・ 数量：2本使用
- ・ すべり止めの処理があること。

- トラック等で運搬するときは、一輪管理機を必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運転中急発進・急旋回・急ハンドルはしないでください。

※ 守らないと、一輪管理機が移動して転落事故の原因になります。



トラックの変速を1速かRにする。
必ず、車止めをすること。



1.1.5 作業中は

気象条件などに注意して、作業実施の判断、作業方法や整備の選択に十分に配慮してください。



警告



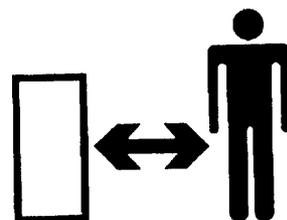
作業中は周りの人（特に子供）や車に注意してください。

作業中は、作業員以外の人を機械に近づけないでください。



作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、声を掛けて合図してから行なってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告



●草やヒモの巻き付きの除去は、必ずエンジンを停止してください。

※ 守らないと、回転物に接触しケガをする恐れがあります。

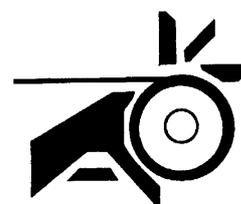
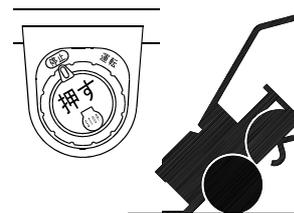


●ロータリを浮かして、巻き付きを除去する際は、平たんで地面が固い場所で作業してください。

※ 守らないと、機械が転倒しケガをする恐れがあります。

●運転中または回転中にカバーを開けないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。



回転部や作業部・マフラー・エンジン等の過熱部、危険な箇所には、手足を触れないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



運転中または回転中に中をのぞいたり、近寄ったりしないでください。

※ 守らないと、飛散物または吐出物があたりケガをすることがあります。



 警告



給油後は、燃料キャップを確実にしめてください。

※ 守らないと、火災事故を起こす恐れがあります。



● 夜間作業はあたりが暗くて見えないため非常に危険ですから、作業しないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。

● 畦を横断するときは、ロータリの回転を止め、低速で畦を直角にゆっくり走行してください。

● 畦の高さが高いところでの、ほ場の出入りは、必ずアユミを使用してください。

※ 守らないと、衝撃で機械を破損させたり、スリップや転倒し傷害事故を起こすことがあります。



1.1.6 定期点検・整備について

 注意

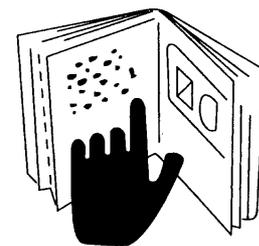


取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※ 機械を長持ちさせるとともに、効率的な作業が行える第一歩です。

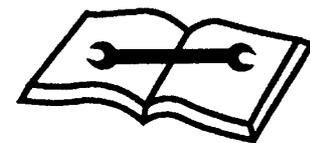
点検・整備は必ずエンジンを停止して、明るく、地面が平坦で固く、広い場所で行なってください。

※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



点検・整備は適正な工具を正しく使用して行なってください。

※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。




注意


ハウジング（ファン）内に付着しているワラクズやゴミを取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となるおそれがあります。



警告


● 各レバーを「切」にし、エンジン、ロータリ爪が完全に停止してから行なってください。

● ロータリ部を浮かして点検・整備する場合は、機体が倒れないよう地面が平坦で固く、広い場所で行なってください。

※ 守らないと、思わぬ傷害事故を引き起こす原因となります。

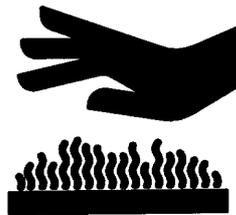


危険


過熱部分は、冷えてから行ってください。

● エンジン停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 守らないと、過熱部分にさわり、ヤケドをするおそれがあります。



1. 使用上のポイント



警告



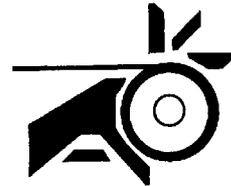
指定以外のアタッチメントの取付けや、改造は絶対にしないでください。

※ 守らないと、故障や事故の原因になります。



点検・整備で取外した保護カバー類は必ず元のおりに取付けてください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



マフラーやエンジン周辺部の草のくず・ゴミ等は、取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。



1.1.7 格納・保管時は



警告



エンジンが過熱している間に、シートをかけるしないでください。

※ 守らないと、火災の原因となることがあります。



マフラー周辺部、エンジンのハウジング（ファン）部にたまっているワラズ等は、きれいに取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となることがあります。



● 燃料パイプの破損や、燃料モレがないか必ず点検してください。

※ 守らないと、火災事故を引き起こし、ヤケドをすることがあります。

● 長期格納するときは、燃料が変質するので、すべて抜き取ってください。

※ 守らないと、次回使用の際に、エンジン不調の原因となることがあります。



1.2 警告ラベルについて

- この一輪管理機には、安全に作業していただくため、「警告ラベル」が貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- 警告表示ラベルが破けたり、はがれたり、読めなくなったときは、新しいラベルを注文し、貼り替えてください。
- 警告ラベルには洗車時、直接圧力水をかけないでください。はがれやすくなる場合があります。
- 泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同じラベルを貼付した部品に交換してください。
- 警告ラベルは、「お買いあげ先」へご注文ください。

1.3 警告ラベル貼付箇所

The diagram shows a riding lawn mower with several warning labels pointing to different components. Each label includes a symbol, text, and a part number.

- Label 1 (Top Left):**
 - Symbol: Danger (triangle with exclamation mark)
 - Text: カバー内（エンジン冷却フィン付近）のワラズは、火災の原因になります。作業終了後は、カバーをはずし点検し、取り除いてください。
 - Part Number: 1122-940-011-0
- Label 2 (Top Middle):**
 - Symbol: Danger (triangle with exclamation mark)
 - Text: 火災事故やオーバーヒートを引き起こすことがあります。作業前にハウジング（ファン）内に付着しているワラズやゴミを取扱説明書に従い、取り除いてください。作業時は、マフラーやエンジン周辺のワラズやゴミを毎回、取り除いてください。給油後、燃料キャップを確実に締めてください。作業終了後、エンジンオイルとエアクリーナの状態を確認しメンテナンスしてください。（取扱説明書参照）
 - Part Number: 1155-930-011-0
- Label 3 (Top Right):**
 - Symbol: Danger (triangle with exclamation mark)
 - Text: 危険
 - Symbol: No fire (circle with slash over flame)
 - Text: 引火のおそれがあります。火を近づけないでください。
 - Part Number: 1675-905-008-0
- Label 4 (Middle Left):**
 - Symbol: Caution (triangle with exclamation mark)
 - Text: 注意
 - Symbol: No hand (circle with slash over hand)
 - Text: ケガをするおそれがありますので運転中は手を入れないでください。
 - Part Number: 3533-901-015-0
- Label 5 (Middle Middle):**
 - Symbol: Warning (triangle with exclamation mark)
 - Text: 警告
 - Symbol: Hand near flame
 - Text: やけどをするのでマフラーにさわらないでください。
 - Part Number: 1675-905-007-0
- Label 6 (Middle Right):**
 - Symbol: Caution (triangle with exclamation mark)
 - Text: 注意
 - Symbol: No belt (circle with slash over belt)
 - Text: ベルトに接触しケガをするおそれがありますので、運転中はカバーを開けないでください。
 - Part Number: 1118-901-016-0
- Label 7 (Bottom Middle):**
 - Symbol: Caution (triangle with exclamation mark)
 - Text: 注意
 - Text: カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。
 - Part Number: 1116-902-004-0
- Label 8 (Bottom Right):**
 - Symbol: Warning (triangle with exclamation mark)
 - Text: 警告
 - Symbol: Rotating blade (circle with curved blade)
 - Text: ロータリが回転している時はロータリに巻き込まれる恐れがあります。足を近づけないでください。
 - Part Number: 1120-902-004-0
- Label 9 (Bottom Left):**
 - Symbol: Caution (triangle with exclamation mark)
 - Text: 注意
 - Text: 運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。
 - List:
 - すべてのカバー・キャップ類を所定の位置に取り付けてください。
 - 子供や機械を使わない人を近づけないでください。
 - 点検・整備・給油をする時は、必ずエンジンをとめてください。
 - 回転物には、手足や衣服を近づけないでください。
 - 排気ガス中毒防止のため、十分換気に注意してください。
 - 後進時、後に障害物がないことを確認してください。
 - 傾斜地や悪条件の土地の作業では、安全に十分注意してください。
 - Part Number: 1111-910-025-0

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

この商品には、『**キセキ保証書**』が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

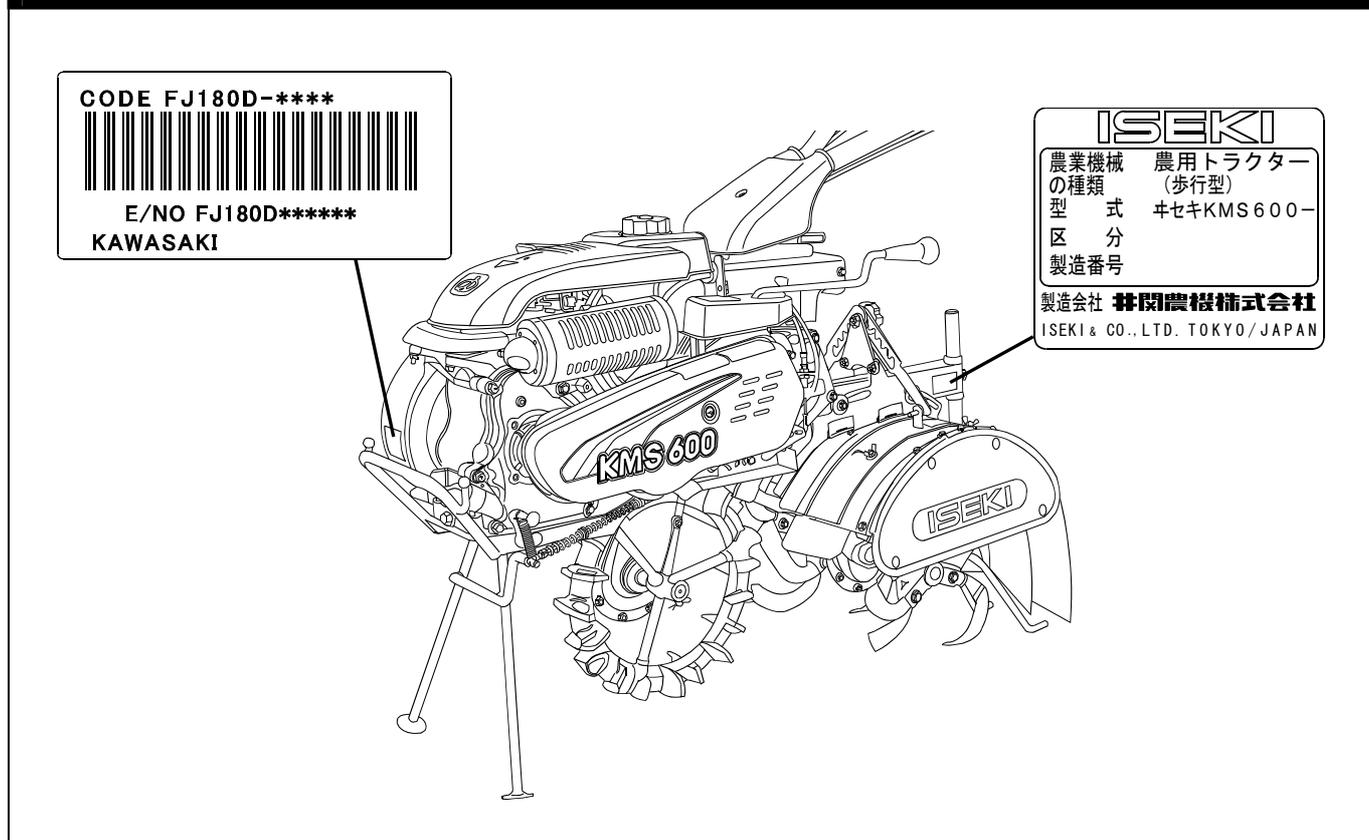
2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、「お買いあげ先」へお気軽にご相談ください。その際、

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式とエンジン機関番号

をあわせてご連絡ください。

2.3 銘板の位置



2.4 補修用部品の供給年限について

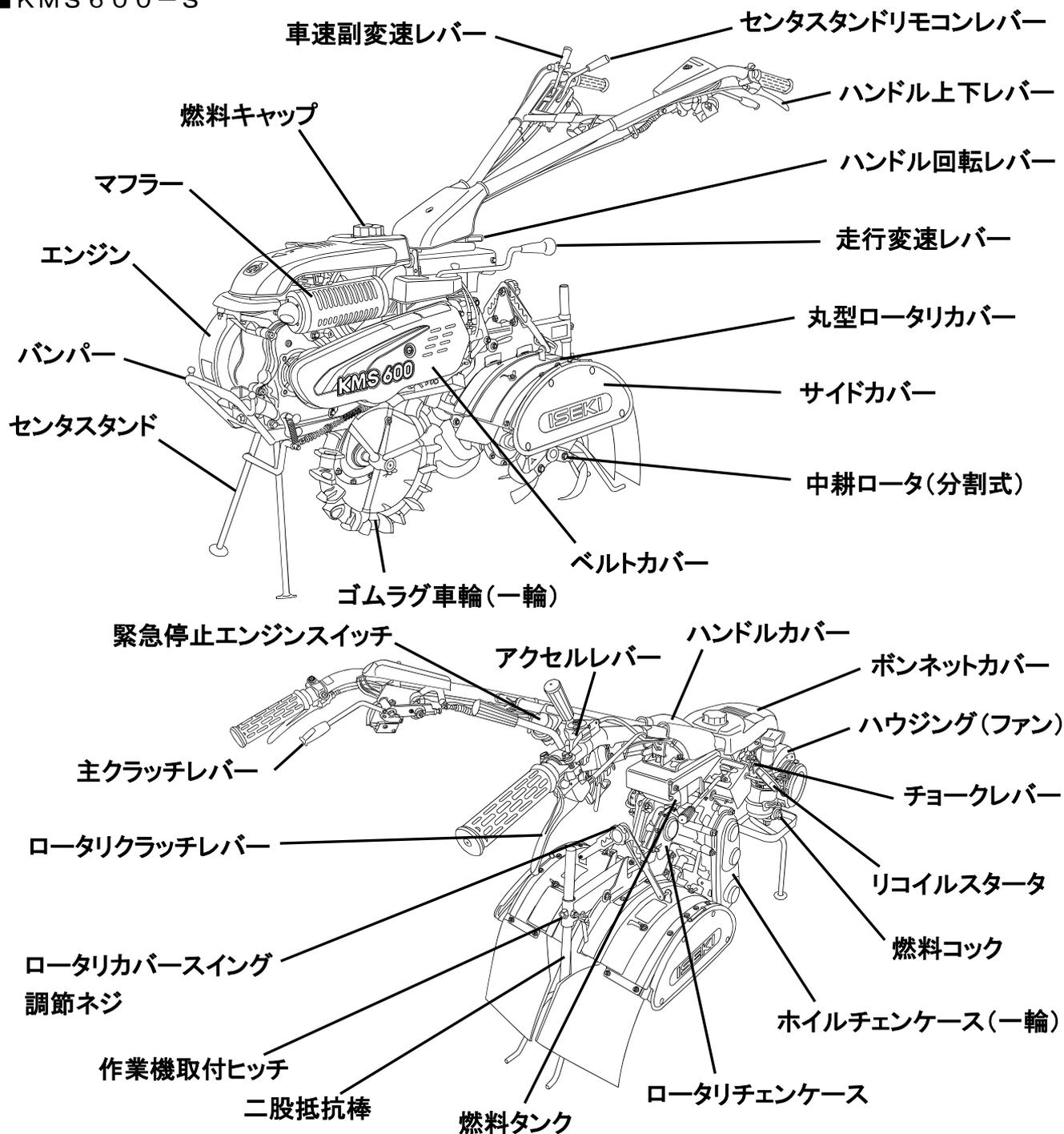
- この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

3.1.1 全体

■KMS600-S



3.1.2 レバー関係

■ KMS 600、500

● **走行変速レバー**

変速は、R、1、2があります。マーカを表示に合わせてください。レバーを持ち上げると、使いやすい位置にずらせます。

● **緊急停止エンジンスイッチ**

エンジンの運転(始動)、停止に使用します。右にひねって「運転」となり、押すと「停止」となります。緊急時にも押すとエンジン停止します。

● **走行副変速レバー**

作業に合わせて、車速を「高速」「低速」に変速できます。

● **アクセルレバー**

内側に操作するとエンジン回転が上がリ、外側に操作するとエンジン回転が下がります。

● **スタンドレバー**

レバーを前に押すとセンタスタンドが収納できます。レバーを引くとスタンドが出せます。

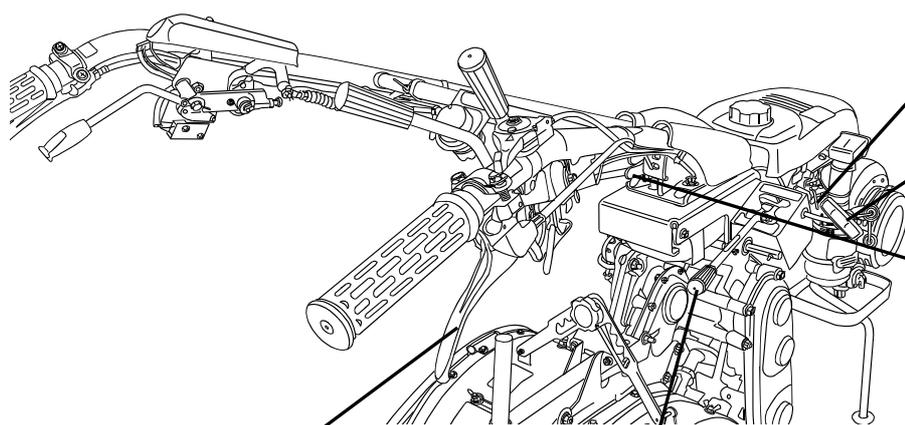
● **主クラッチレバー**

(シングルフィンガーレバー)

ハンドルをにぎった状態で主クラッチレバーを指で持ち上げると、主クラッチが「入」になります。親指でレバーを押すと主クラッチが「切」になります。

● **ハンドル上下レバー**

レバーをにぎるとハンドル高さがフリーとなり、放すと5段階に調節できます。



● **チョークレバー**

エンジン始動時に使用します。

● **リコイルスタータ**

エンジン始動時に引張ります。

● **ハンドル回動レバー**

ハンドルを3段目以上の高さにし、レバーを引き上げると、ハンドル回動できる状態となり、位置が決まれば、レバーを下げてロックします。

● **ロータリ変速レバー**

変速は正転の「低速」「高速」逆転の「低速」「高速」があります。表示位置に合わせて操作します。

● **手元ロータリクラッチレバー**

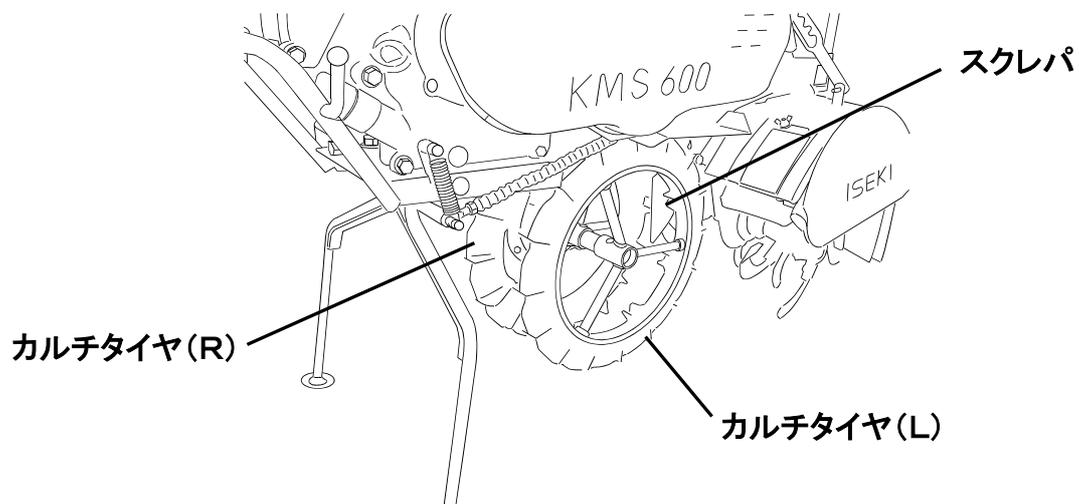
レバーをにぎるとロータリ(爪)が停止し、放すとロータリが回ります。

注 意

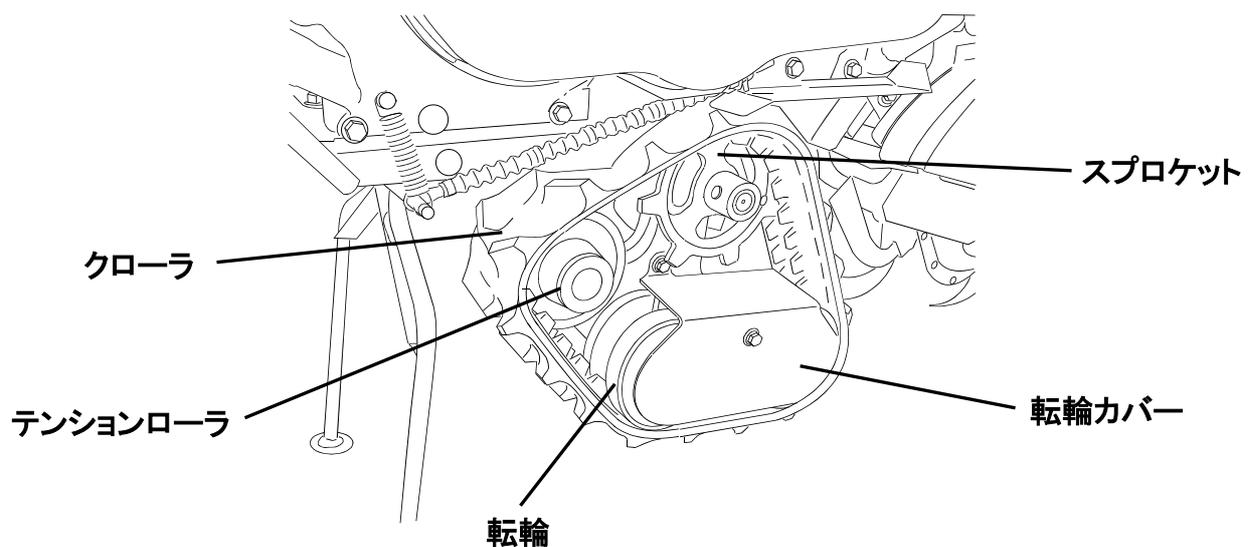
- 走行・ロータリ変速レバーの操作は、必ず主クラッチを「切」にしてから行なってください。
- 走行副変速レバーは、走行中（主クラッチ「入」の状態）に操作しないでください。
- ハンドル回動は、スタンドを立てて、安定させてから行なってください。
- ハンドル回動で正位置から逆位置にする場合は、時計回りに動かしてください。

3.1.3 走行部

- KMS600-2W、2WV
1輪2輪組替えタイヤ仕様



- KMS600-CW、CWV
クローラ仕様



4. 作業前点検

危険



燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。

※ 守らないと、燃料に引火し、爆発のおそれや火災の原因になります。

給油、注油および回転部等の点検は、必ずエンジンを止めて、各部の回転(特にロータリ爪)が止まってから行なってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして思わぬ事故を引き起こすことがあります。



燃料、オイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。

※ 守らないと、火災の原因や足元が滑って転倒のおそれがあります。

点検時にカバーを開けたり、取外したりした場合は、必ず元に戻してから作業してください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたり、はさまれる等の傷害事故を起こします。

作業前に、ハウジング(ファン)内に付着しているワラクズやゴミを34ページに従い、取り除いてください。

※ 守らないと、火災事故やオーバーヒートを引き起こすおそれがあります。

4.1 エンジンを始動する前に

点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
前日異常のあった箇所	・再度異常がないか点検します。	・異常がある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
警告ラベルの点検	・はがれ、破損等	・新しいものに貼り替えてください。	P 9
タイヤ、クローラ	・磨耗、損傷はありませんか ・たるみはありませんか	・交換は「お買いあげ先」に相談してください。	P 4 3 P 4 4
油漏れ	・各部に漏れがありませんか	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	P 3 8
エンジンオイル	・オイルゲージの上下限の間に油量がありますか	・補給してください。 キセキスーパーマルチ(10W-30)	P 3 7 P 3 8
エアクリーナ	・オイルバスエアクリーナのオイルパンおよびスポンジの汚れはありませんか	・オイルパンとエアクリーナスポンジの清掃をしてください。 エアクリーナのオイルパン部にキセキスーパーマルチ(10W-30)を適量入れてください。	P 4 0

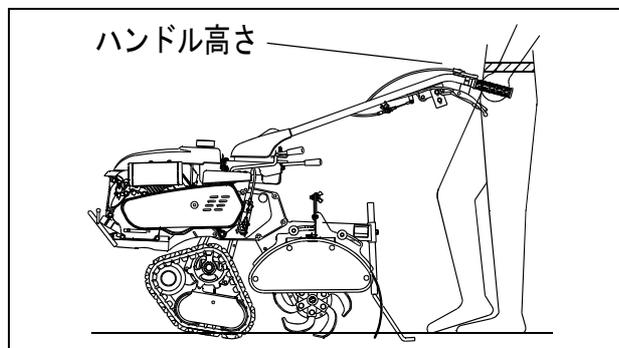
点検箇所	点検項目	処置	参照ページ
ハウジング (ファン) 内	・ハウジング (ファン) 内にワラクスやゴミはたまっていますか	・ハウジング (ファン) を外してワラクスやゴミをのけてください。	P 3 4
入力ベルト	・主クラッチ「入」でベルトが張れていますか	・ベルトの張り量を調整します。	P 4 1
ロータリカバー	・爪がロータリカバーとカバー内部のゴムと当たっていませんか	・ロータリカバーを左右に広げてください。	P 2 5
ロータリ爪	・爪の取付けがゆるんでいますか	・爪を取付けているボルト・ナットを確実に締付けてください。	P 4 2
	・爪が摩耗していませんか	・交換は「お買いあげ先」に相談してください。	P 4 6

5. 運転のしかた

5.1 ハンドル調整のしかた

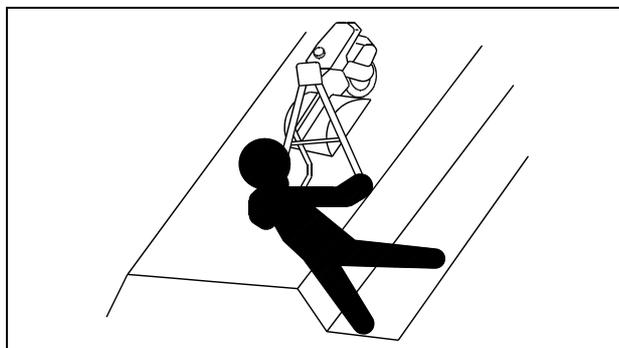
■ハンドル高さの調整のしかた

ハンドル上下レバーをにぎり、ハンドル高さを腰の高さ（ズボンのベルト）位置くらいに合わせてください。



■ハンドル回動調節のしかた

- 1 平地で中耕作業をするときに、足跡をつけないようにするために、ハンドル回動レバーをにぎってハンドルを振り、レバーを下ろしてロックします。
- 2 畝の上の管理作業をする際、作業者は溝を歩くために、ハンドルを振って使用します。



5.2 エンジン始動と停止のしかた



警告



始動する前に周囲の人に声で合図してください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。

各保護カバー類が取付けてあるか確認してください。また運転中はカバーを開けないでください

※ 守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因となります。

主クラッチは「切」、走行速度、ロータリ変速レバーは「N」アクセルレバーは低速で始動してください。

※ 守らないと急発進や、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因となります。

室内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

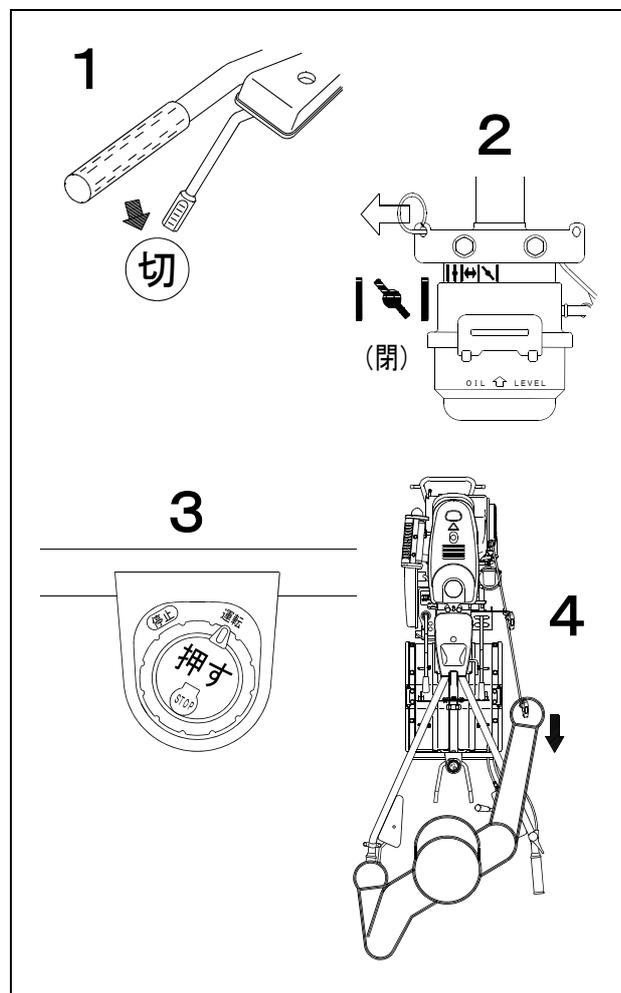
※ 排気ガスによる中毒を起こすおそれがあります。

5.2.1 エンジン始動のしかた

- 1 主クラッチレバーを「切」にします。
- 2 エンジンのチョークレバーを引きます。
- 3 エンジンスイッチを「運転」にしてください。
- 4 リコイルスタータを勢いよく引張るとエンジンが始動します。
- 5 エンジンの調子を見ながらチョークを（全開に）戻してください。

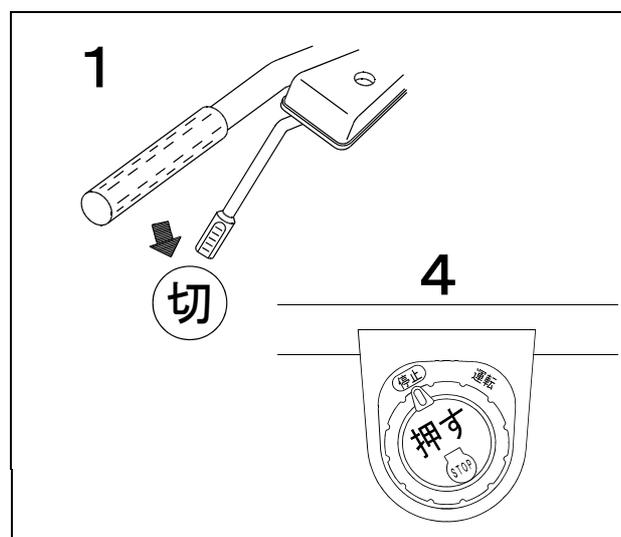
補足

- リコイルを5回以上引いて始動しない場合は、チョークを開にしてアクセルレバーを中速位置にしてリコイルを引いてください。
- 始動後すぐにアクセル操作を行うと停止することがあります。十分暖機運転を行なってください。
- エンジンが暖まっているときはチョーク操作は不要です。
- リコイルを引くときは、後方に人がいないことを確認してください。



5.2.2 エンジン停止のしかた

- 1 主クラッチレバーを「切」にします。
- 2 アクセルレバーを低速（外側にひねる）にし、エンジンをアイドリングにします。
- 3 タイヤやロータリ爪が止まったことを確認してください。
- 4 エンジンスイッチを押して「停止」にするとエンジンが止まります。



5.3 スタンドの使い方



注意



スタンドを立てるときは、平らで、地面が固い場所に立ててください。

※ 本機が転倒し、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

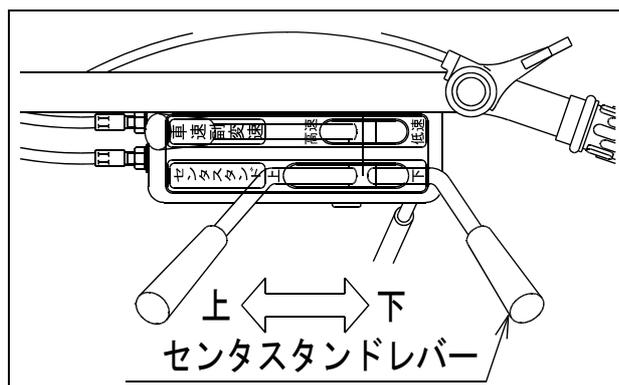


スタンドを立てるときは、エンジンを停止して立ててください。

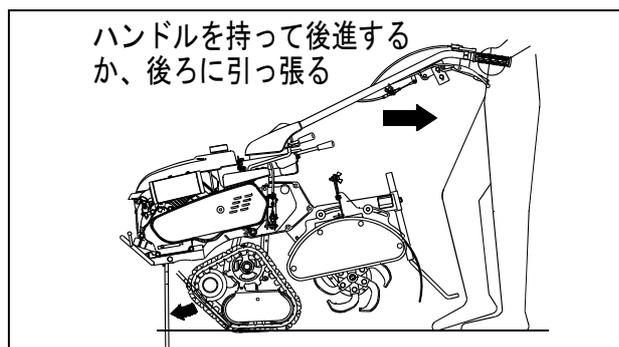
※ エンジンやマフラーなどの高温部に触れて、ヤケドのおそれがあります。

5.3.1 センタスタンドの立て方

- 1 手元のセンタスタンドレバーを「下」にして、センタスタンドを地面に着けます。



- 2 ハンドルを持ち、機体を後ろに引くとセンタスタンドが立ちます。
- 3 地面が固い場所では、抵抗棒（作業機）を支点に後ろに引くとセンタスタンドが立ちます。

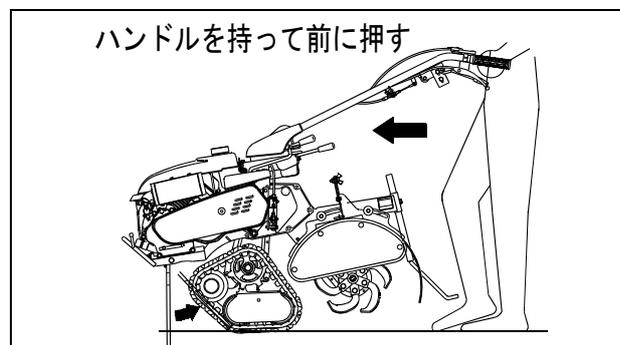


5.3.2 センタスタンドの収納のしかた

- 1 ハンドルを持ってそのまま機体を前方に押し、タイヤを地面に着けます。
- 2 手元のセンタスタンドレバーを「上」にして、収納します。

補足

- タイヤやクローラが地面に着いても、条件によっては、センタスタンドが地面に埋って、収納しにくいことがあります。その場合は、エンジンを始動させ、「1速」「低速」で機体を前進させてから、センタスタンドレバーを「上」に操作してください。



5.4 トラックへの積み・降ろしのしかた



警告



アユミの上では、必ずロータリ変速レバーはニュートラルにしてください。
 ※ ロータリ爪が回転し、アユミに食い込む等思わぬ事故を引き起こす原因となります。

周囲に危険のない平らで地面が固い場所を選んでください。

※ 転倒・転落事故の原因となります。

アユミは、すべり止めのついたものを使用し、荷台に段差がないように確実にかけてください。

※ 転倒・転落事故の原因となります。

積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めしてください。

※ 思わぬ事故を引き起こす原因となります。



アユミの上では、主クラッチレバーを「切」にしないでください。

※ 車輪がフリーとなり機体がすべり落ち、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

ロープは所定の位置以外にはかけないでください。

※ 機械の破損や故障の原因となります。

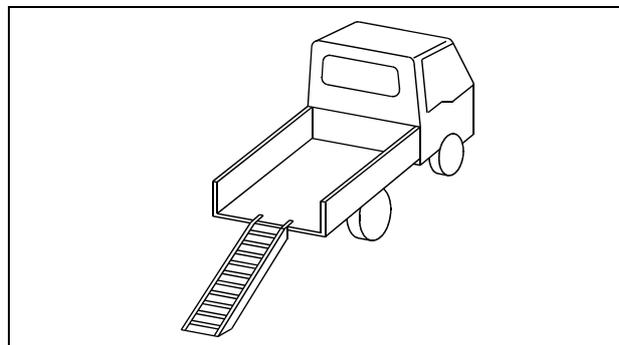
5.4.1 アユミを使用しての積み・降ろしのしかた

1 基準に合ったアユミを用意してください。

補足

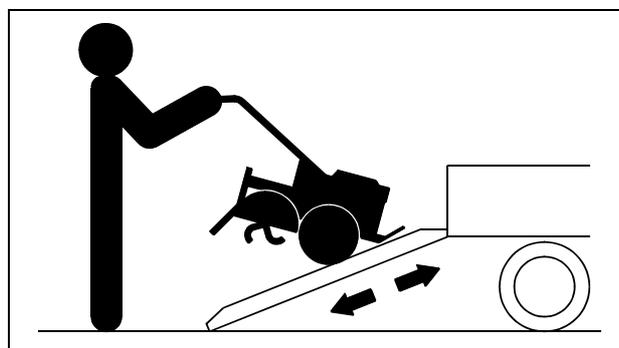
● アユミの基準

- a) 長さ…車の荷台高さの2.5倍以上
- b) 幅…30cm以上
- c) 強度…200kg以上（1枚）
- d) 数量…1枚使用
- e) すべらないよう処理してあること。
- f) 一方の端にトラックの荷台に引っかけるフックがあること。



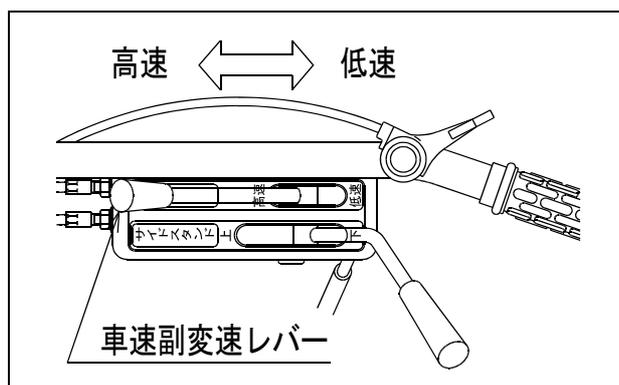
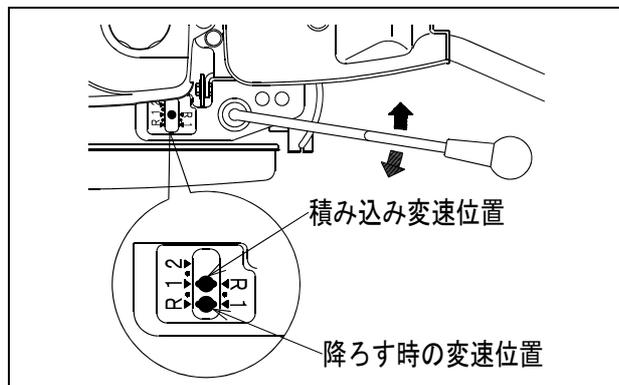
2 ハンドル回動している場合は、正位置に戻してください。

3 ハンドルを下げて、ロータリ側を持ち上げた姿勢で積み降ろししてください。



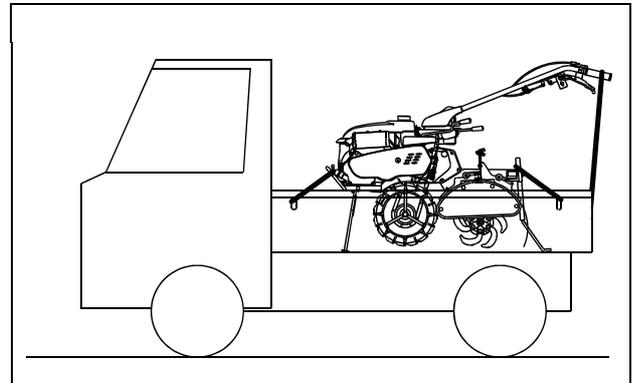
4 ロータリ変速レバーは「N」にしてください。

5 走行変速レバーを積み込みは「1速」、降ろす時は「R」に入れ、副変速レバーを「低速」にして、ゆっくり積み降ろししてください。



5.4.2 ロープのかけかた

- 1 センタスタンドを立ててください。
はじめにバンパ部のロープフックにロープを
かけ、前方向に左右に引張ります。
- 2 抵抗棒部にロープをかけ、後方向左右に引張
って固定します。
- 3 長距離を走行する場合は、ハンドルを左右後
方にロープをかけます。



6. 作業前の準備

6.1 管理機の準備



警告



センタスタンドを立てるときは、平たんで地面が固い場所で立ててください。

※ 本機が転倒し、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

カルチタイヤの組替えやクローラの接地面の組替えをする場合は必ず、センタスタンドを立ててください。

※ 本機が転倒し、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

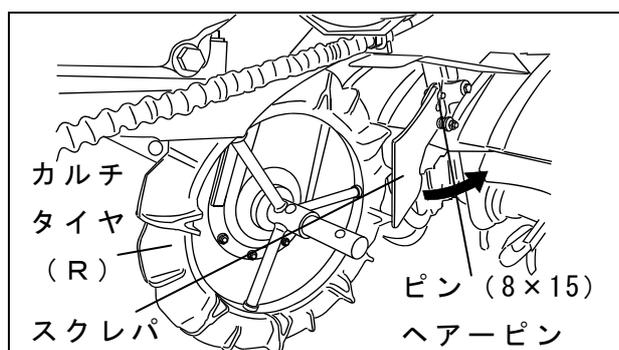
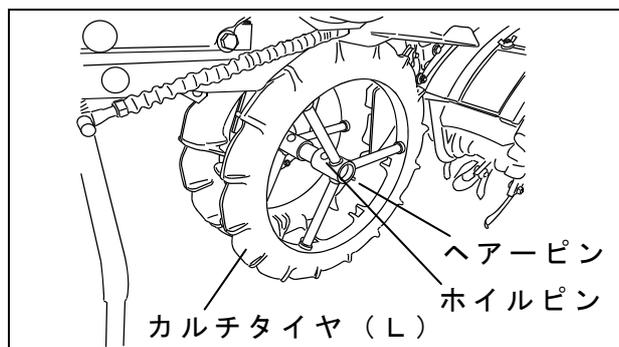
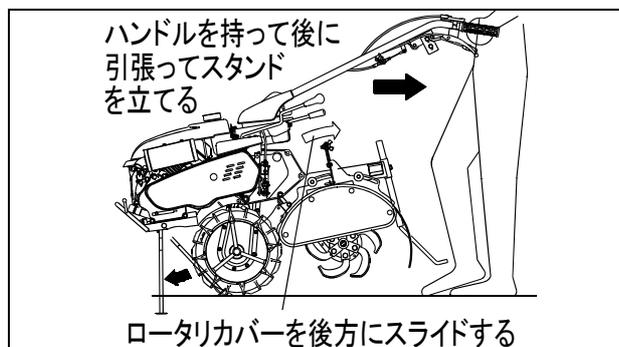
6.1.1 2W型車輪の組替え（2輪→1輪）

1 エンジンを停止させ、センタスタンドを立ててください。

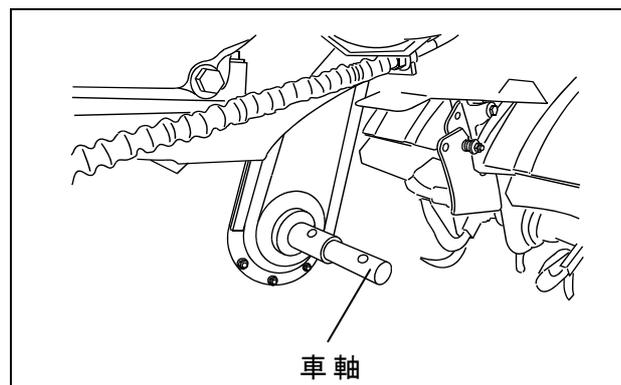
2 ロータリカバーを後方にスライドしてください。

3 外側のカルチタイヤ（L）のホイールピンのヘアピンを抜いて外し、カルチタイヤ（L）を車輪から抜きます。

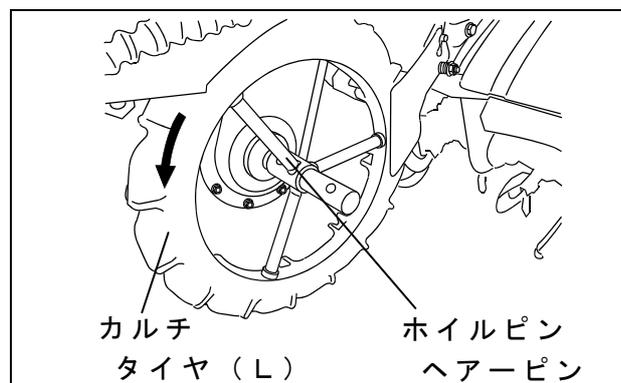
4 スクレパをセットしているピン（8×15）をヘアピンを抜いて外し、スクレパを後方にずらします。



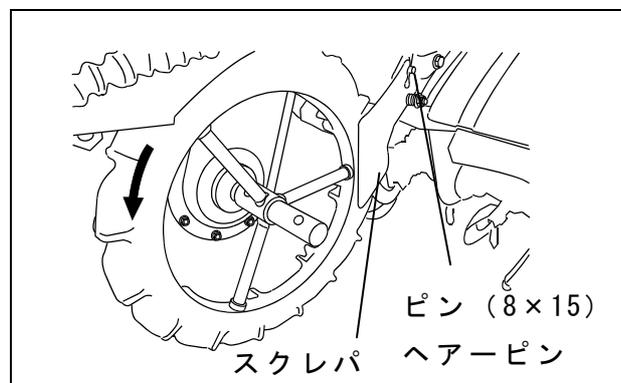
- 5 内側のカルチタイヤ（R）のホイールピンのヘアーピンを抜いて外し、カルチタイヤ（R）を車輪から抜きます。



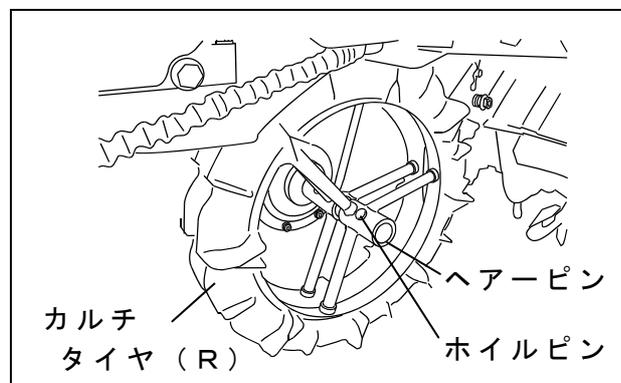
- 6 外した外側のカルチタイヤ（L）を回転方向（矢印）に注意して組付け、ホイールピンを差し、ヘアーピンで抜け止めします。



- 7 スクレパを前に出し、ピン（8×15）を差し込み、スクレパを固定し、ヘアーピンで抜け止めします。カルチタイヤ（L）とスクレパが接触していないことを確認してください。

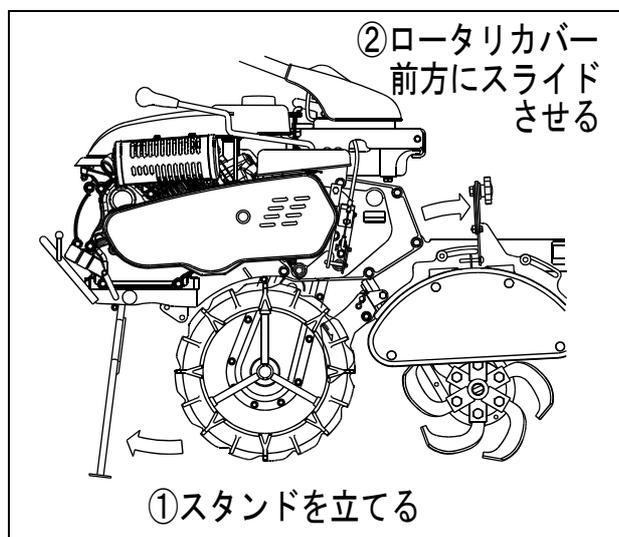


- 8 外した内側のカルチタイヤ（R）を、先にセットしたカルチタイヤ（L）のスポークの位置と合わせて車軸に組付け、ホイールピンを差しヘアーピンで抜け止めします。カルチタイヤ（R）スクレパと接触していないことを確認してください。

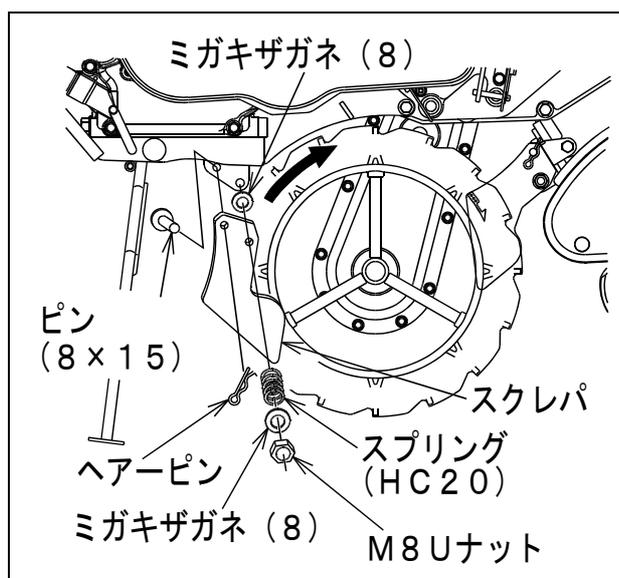


6.1.2 2W型 フロントカルチ作業の場合

- 1 エンジンを停止させ、センタスタンドを立ててください。
- 2 ロータリカバーを前方にスライドしてください。
- 3 外側のカルチタイヤ（L）のホイールピンのヘアピンを抜いて外し、カルチタイヤ（L）を車軸から抜きます。

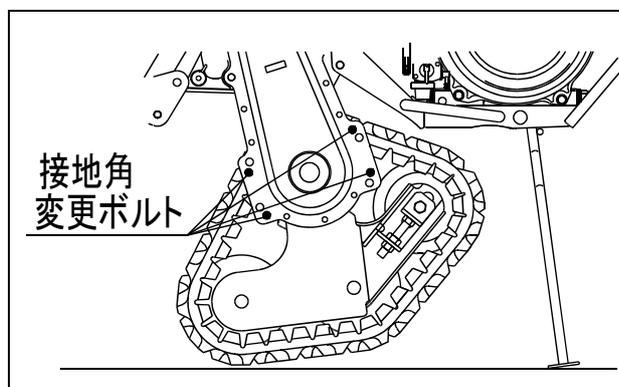


- 4 スクレパを固定しているピン（8×15）を抜き、M8Uナットを外し、スクレパを外します。
- 5 外したスクレパをEベース下のステーに右図のようにセットします。
- 6 外したカルチタイヤ（L）を（R）と同じスポークの位置に入れ、ホイールピンとヘアピンで抜け止めします。スクレパとカルチタイヤ（L）（R）が接触していないことを確認してください。



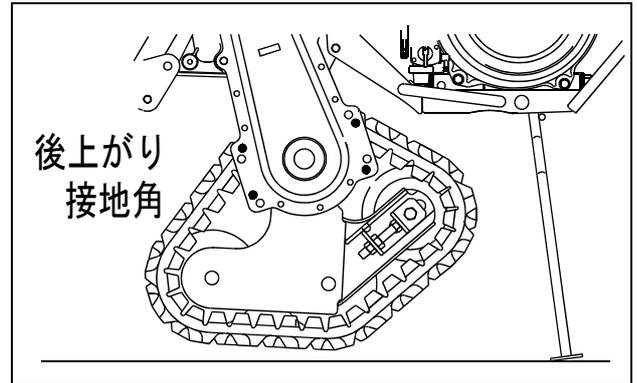
6.1.3 CW型 接地面の調節

- 1 エンジンを停止させ、センタスタンドを立ててください。
- 2 クローラベースを留めている図の黒塗りの4本ボルトを外し、別の4ヶ所の穴にボルトを入れて、クローラベースを確実に固定してください。



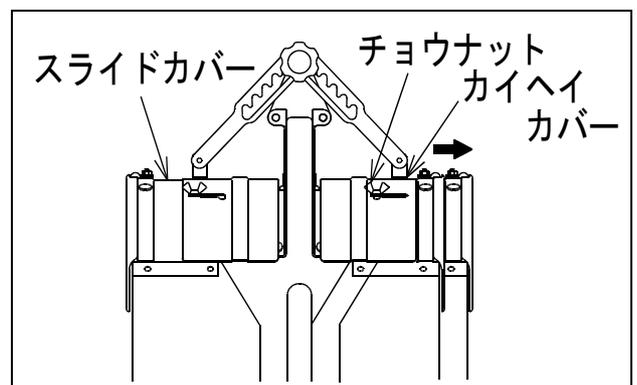
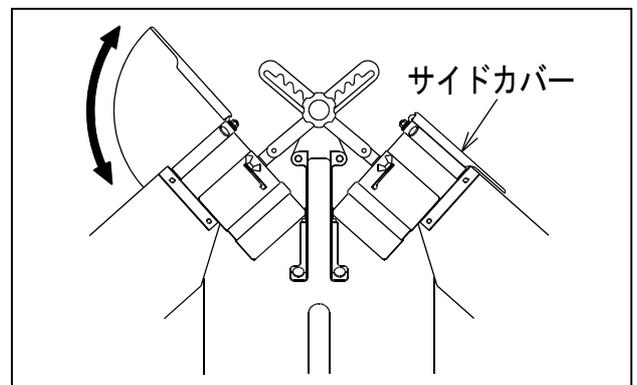
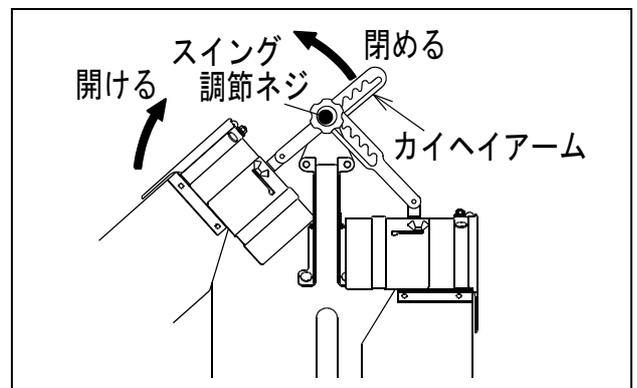
補足

- 一度に深い中耕や溝掘り作業をしたときにケン引力不足が発生することがあります。このような作業をするときは、この調節が必要です。また、通常の作業時は、元の位置に戻してください。



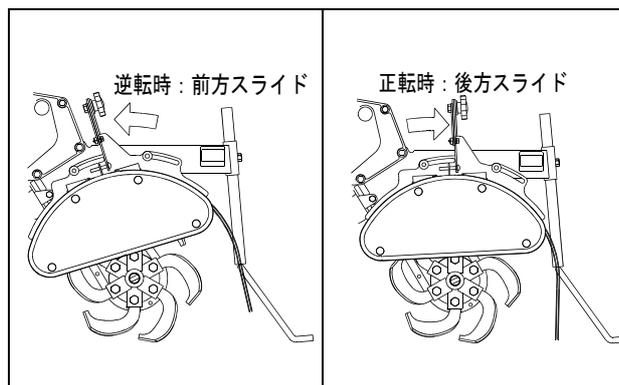
6.1.4 ロータリカバーの調節

- 1 ロータリカバーを開ける時
ロータリカバーと中央部のスイング調節ネジをゆるめ、カバーを持ち上げると開きます。左右それぞれ6段階に調節でき、調節後は、スイング調節ネジを確実に締付けてください。
- 2 ロータリカバーを閉める時
ロータリカバーと中央部のスイング調節ネジをゆるめ、カイヘアームを持ち上げると閉まります。調節後は、スイング調節ネジを確実に締付けてください。
- 3 サイドカバーの開閉
サイドカバーは手で動かせば、開閉できます。作業に応じて調節してください。
- 4 ロータリカバーの左右スライド
作物の植付条件や爪幅により、ロータリカバーの幅方向が調節できます。長穴部のチョウナットをゆるめて調節してください。



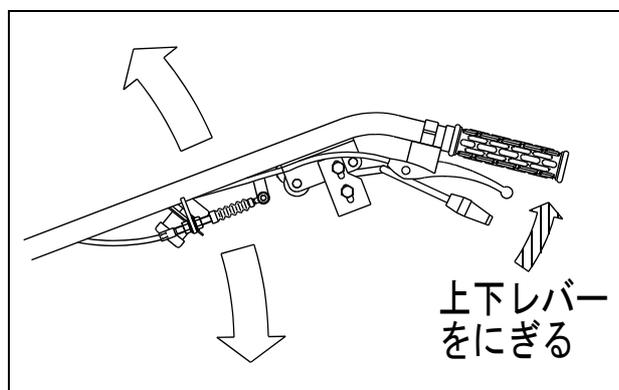
5 ロータリカバーの前後スライド

- スイッチ調節ネジ部を持ち前後に動かします。ロータリ逆転時（溝堀作業）のときは、前方に土が飛ぶので、前に傾けて横に飛ぶように調節します。
- 中耕、耕うん作業時は必ず、ロータリカバーが水平になるように調節します。



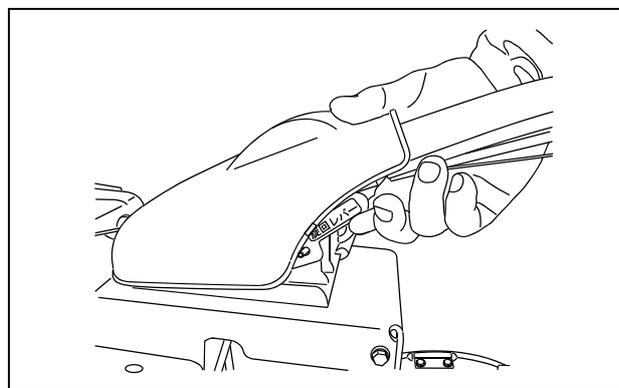
6.1.5 ハンドル調節のしかた

- 1 ハンドル上下調節
 ハンドルの高さは、作業や使われる方の体格に合わせて5段階に調節できます。上下レバーをにぎったままハンドルを上下に動かし、適当な位置でレバーを放すとハンドルはその近辺の位置で固定されます。

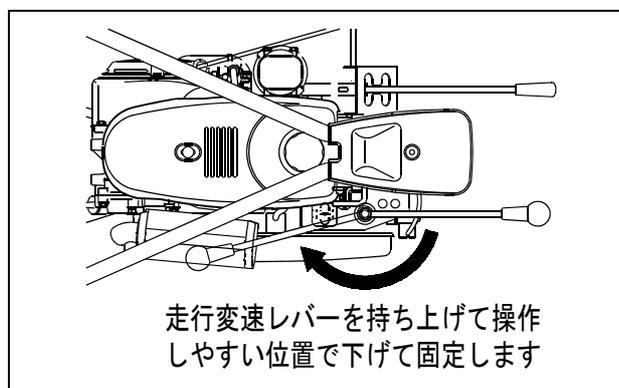


- 2 ハンドル回動調節
 ハンドルは左右に約 18° と 180° 回動（ハンドルフルターン）できます。

- ※ ハンドルを 180° 回動すると安全のため、走行変速が「1」「R」（副変速各2段）のみとなります。
- ※ ハンドル下2段位置では、旋回レバーが引けないため、ハンドルを上げて操作してください。



- ※ 走行変速レバーをエンジンの方向に回動する場合、マフラーに手が当たらない位置に回動してください。



6.2 標準中耕爪の準備



警告



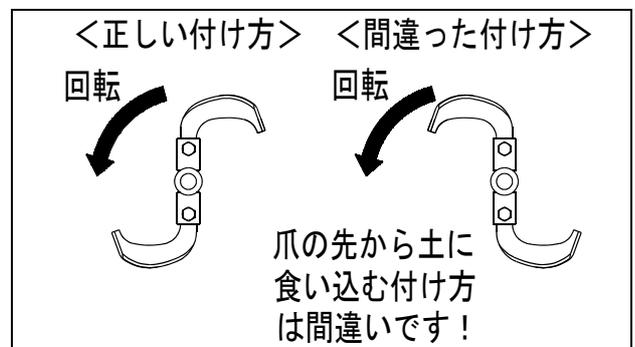
- ロータリを浮かして爪軸を調節する場合は、必ずエンジンを停止してください。
- ※ 守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。
- ロータリを浮かして爪軸を調節する場合は、平らで、地面が固い場所で作業してください。
- ※ 守らないと、機体が転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

6.2.1 爪の回転方向

爪の回転方向は右図の様にセットしてください。

補足

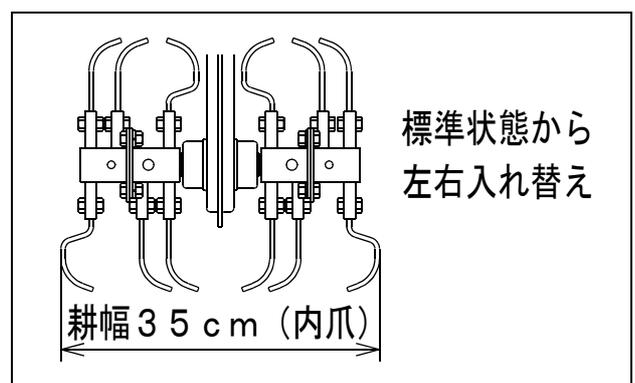
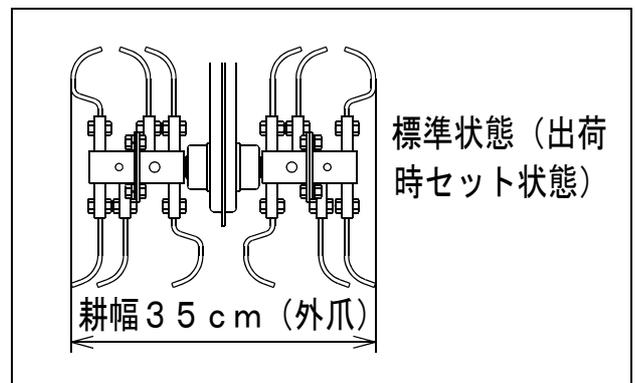
- 爪軸の左右は同時打ちになるようセットしてください。



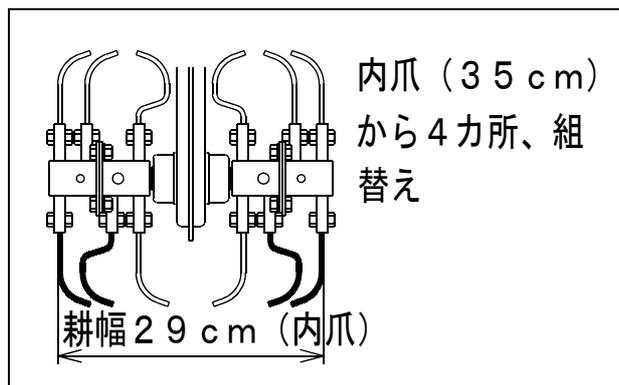
6.2.2 標準ロータリの爪のセット方法

(KMS600-S, 600-2W, 600-CW
KMS500-S)

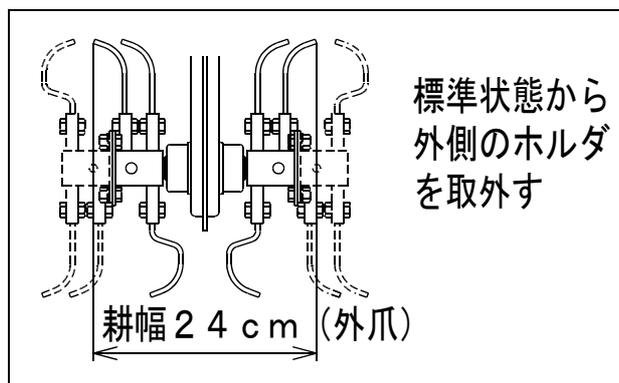
- 1 出荷状態は
中耕、除草作業（外爪35cm）
オプション培土器での作業もこの状態で作業します。
※ 外爪は、耕うん跡が平らにならず、土が外に飛びますので、注意してください。
- 2 左右の爪軸を入れ替えて中耕除草（内爪35cm）になります。
※ 内爪では、耕うん跡がほぼ平らになり、土が外に飛びにくくなります。



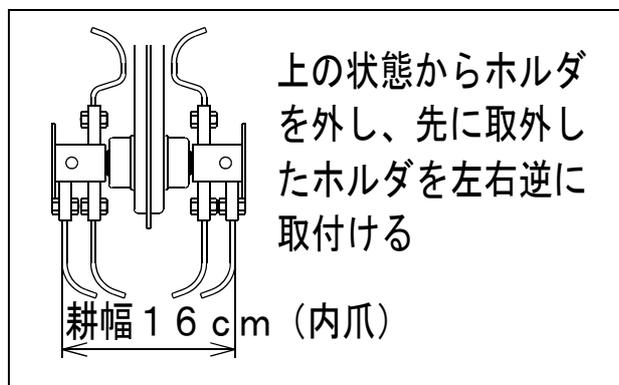
- 3 内爪（35 cm）から右図4本を組替え内爪（29 cm）になります。



- 4 出荷状態から外側の爪ホルダを取外しますと外爪（24 cm）になります。



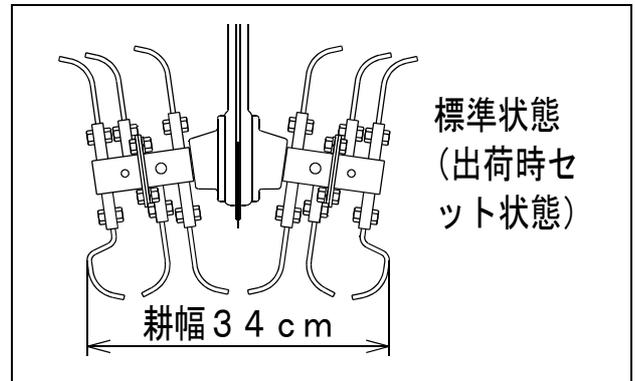
- 5 上記で取外した外側の爪ホルダを左右入れ替えて、付けると内爪（16 cm）になります。



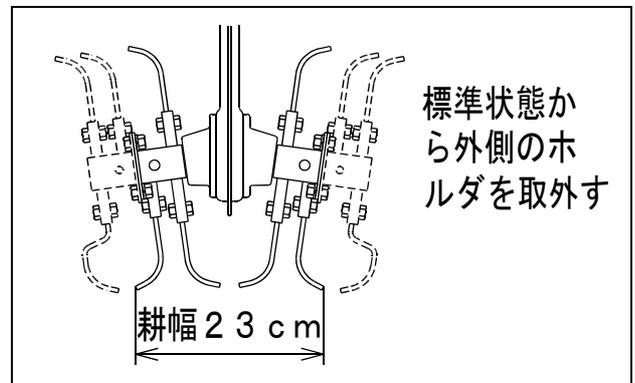
6.2.3 Vカットロータリの爪のセット方法

(KMS600-2WV, 600-CWV
KMS500-2WV)

- 1 出荷状態は
中耕、除草作業（外爪34cm）
オプション培土器での作業もこの状態で作業
します。
※ 外爪は、耕うん跡が平らにならず、土が外
に飛びますので、注意してください。



- 2 出荷時の状態から外側の爪を外しますと、外
爪（23cm）になります。



7. 作業のしかた

7.1 走行速度と適応作業

7.1.1 KMS600-S, 2W, 2WV, KMS500-S, 2WV の場合

速度数	主変速	副変速	速度 (km/m)	適応作業			
				ハンドル正位置		ハンドルフルターン位置	
				ロータリ正転	ロータリ逆転	ロータリ正転	ロータリ逆転
1	1	低	1.21	中耕・除草 培土	揚土・覆土 溝堀り	揚土・覆土 溝堀り	中耕・除草
2		高	1.69	中耕・除草 培土	揚土・覆土	揚土・覆土	中耕・除草
3	2	低	2.99	中耕・除草 培土	揚土・覆土	/	
4		高	4.20	移動			
R1	R	低	1.21	移動（安全のため後進では ロータリが回りません。）		畝立・マルチ	—
R2		高	1.67			畝立・マルチ	移動

7.1.2 KMS600-CW, CWV の場合

速度数	主変速	副変速	速度 (km/m)	適応作業			
				ハンドル正位置		ハンドルフルターン位置	
				ロータリ正転	ロータリ逆転	ロータリ正転	ロータリ逆転
1	1	低	1.08	中耕・除草 培土	揚土・覆土 溝堀り	揚土・覆土 溝堀り	中耕・除草
2		高	1.51	中耕・除草 培土	揚土・覆土	揚土・覆土	中耕・除草
3	2	低	2.63	中耕・除草 培土	揚土・覆土	/	
4		高	3.67	移動			
R1	R	低	1.08	移動（安全のため後進では ロータリが回りません。）		畝立・マルチ	—
R2		高	1.51			(畝立・マルチ)	移動

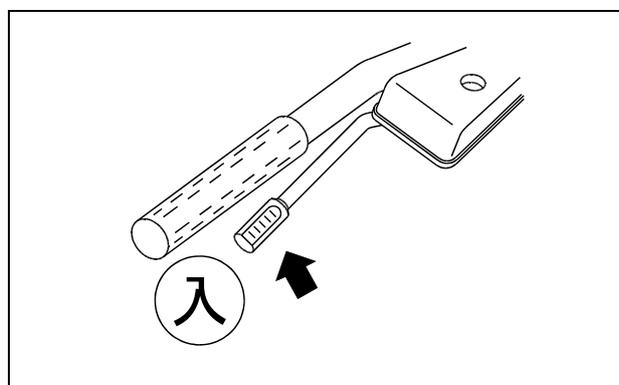
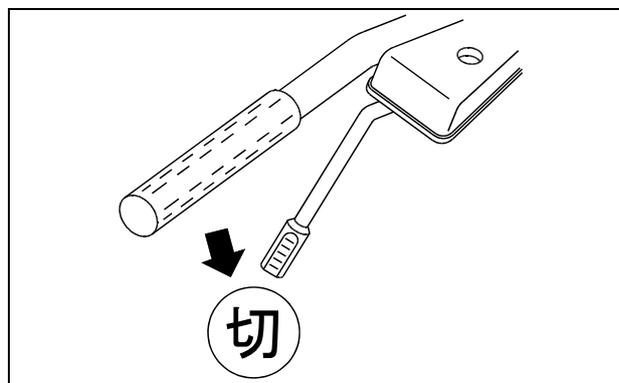
7.1.3 変速のしかた

作業の途中で変速する場合は、下記の要領で行なってください。

- 1 主クラッチレバーを「切」にします。
- 2 走行変速レバー、車速副変速レバー、ロータリ変速レバーを作業内容に適した位置にします。
- 3 主クラッチレバーを「入」にして発進します。

補足

- 各レバーが入りにくい時は、主クラッチレバーを「入」「切」してから操作してください。
- 各レバーは必ず主クラッチレバーを「切」にしてから、操作してください。



7.2 ほ場の出入り



警告



道路とほ場の段差が20cm以上の場合や畦の高さが20cm以上ある場合は、必ずアユミを使用してください。

※ 使用しなかった場合、衝撃で機械が破損したり、転倒するおそれがあります。

畦などの段差を横断する場合は、ロータリの回転を停止し、畦と直角にゆっくり走行してください。

※ 斜めに走行すると、転倒の原因となります。

作業前はマフラーやエンジン周辺ワラズやゴミを毎回取り除いてください。

※ 守らないと、火災事故やオーバーヒートを引き起こすおそれがあります。

7.3 旋回のしかた



警告



せまい枕地でロータリを持ち上げて旋回する場合は、必ずロータリクラッチレバーをにぎってください。

※ 守らないと、ロータリ爪が足元に近づき、巻き込み等の傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ロータリが回転しているときは、足や手を近づけないでください。

※ ロータリに巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。

旋回はアクセルを低速にして走行速度を下げて行なってください。

※ 守らないと、転倒事故の原因になります。

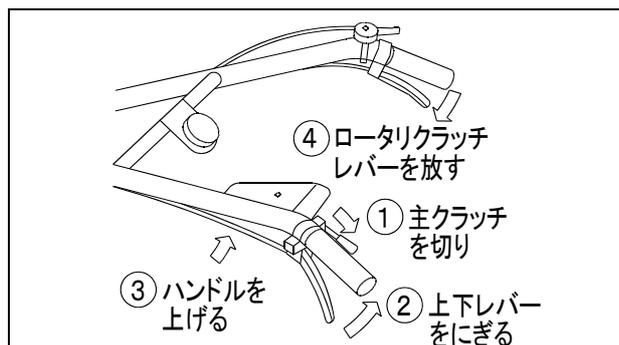
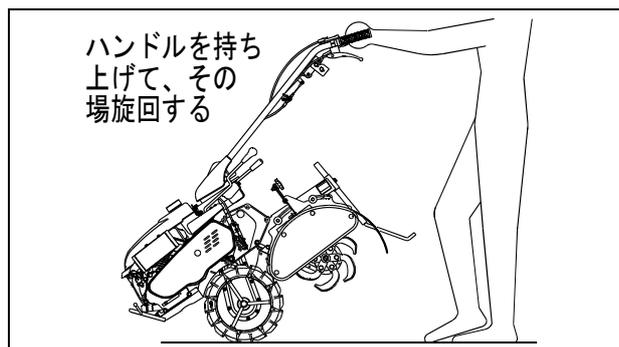
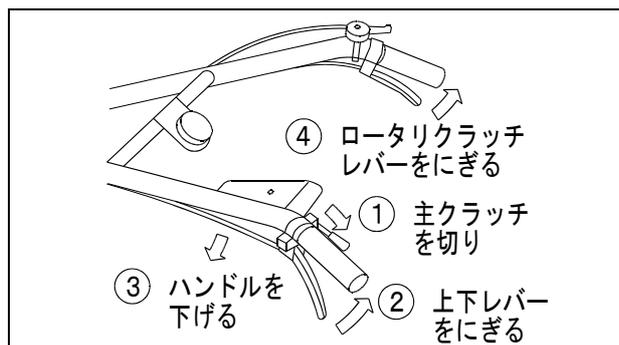
1 主クラッチを切り、上下レバーを操作してハンドルを下げて、ロータリを持ち上げやすくします。

2 右側のロータリクラッチレバーをにぎり、ロータリが回転しないようにします。

3 主クラッチを入れハンドルを持ち上げてその場で旋回します。

4 旋回終了後は、主クラッチを切りハンドルを再び元の位置に戻します。

5 手元のロータリクラッチレバーを放し、主クラッチレバーを入れます。



8. 点検整備

一覧表に従い、定期的に点検整備を行なってください。



警告



給油および点検整備するときは、(1) 一輪管理機を平たんな広い場所に置き、(2) エンジンを停止し、(3) センタスタンドを立て、(4) 抵抗棒を下げて爪を浮かし、(5) エンジン各部が十分冷えてから、安全を確認して行なってください。
 ※ 安全を確認せずに点検をすると、傷害事故を引き起こすことがあります。

8.1 定期点検・整備箇所一覧表

○：点検・補充・調整 ●：交換 △：清掃・洗浄 ★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします。

		シーズン前	毎日始業時	20時間	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	備考	参照ページ
エンジンオイル	点検 交換	○		●		●		●		100時間ごと	P 37 P 38
エアクリーナ	洗浄 交換	○	○	△	△	△	△	△	△	オイルが汚れたら交換	P 40
燃料ホース	点検 交換		○			○				100時間ごと	P 45
点火プラグ	点検 交換	○								エンジン不調時	P 39
ミッションオイル	交換	○		●		●		●		100時間ごと	P 38 P 39
各ワイヤ類	交換 グリス補充	○								作業前と格納時	P 36
各レバー類	交換 グリス補充	○								作業前と格納時	P 41 P 42
テンションアーム支点	点検 グリス補充	○		○	○	○	○	○	○	50時間ごと	P 37
ベルトの張り	点検 調整	○		○		○		○		50時間ごと	P 41
エンジンハウジング (ファン)	点検 清掃	○	○							作業前と格納時	P 34 P 41

補足

- オイルバス式エアクリーナを採用しておりますが、作業（逆転高速）によってはオイルパン部に土が入りエアクリーナの役目をなくすことがありますので、毎日オイルの状態を確認してください。

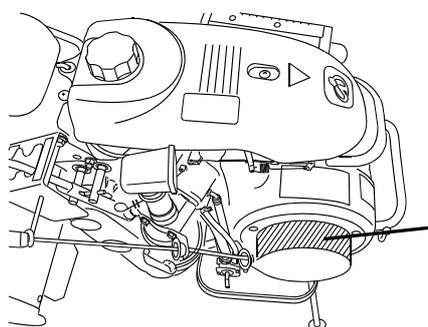
警告



ワラズやゴミがたまると火災の危険があります。

- ※ エンジンリコイル部についてワラズやゴミはエンジンを停止して、常に取り除いてください。
- ※ 作業前にボンネットカバー（樹脂）を外して、ワラズやゴミがある場合は取り除いてください。
- ※ 作業前にハウジング（ファン）を外して、エンジンシリンダヘッド部のワラズやゴミを取り除いてください。

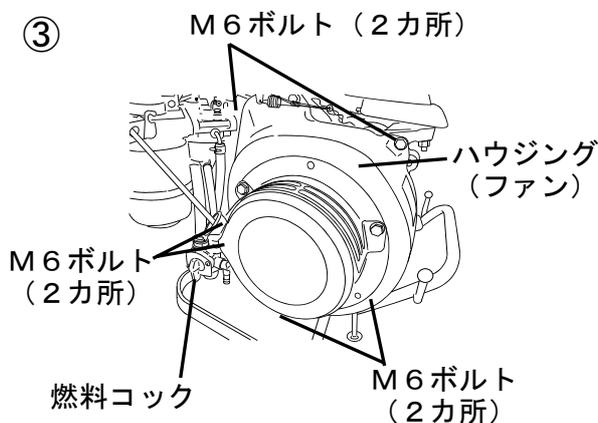
①



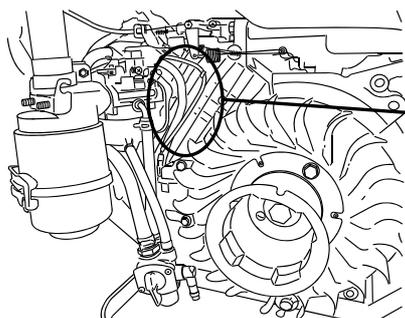
付着したワラズやゴミはいつも取り除いてください。

② ボンネットカバーを外して、プラグ周りにワラズやゴミがある場合は、取り除いてください。

③



- ・ハウジング（ファン）内部のゴミを確認するため、燃料コックを外します。
- ・ハウジング（ファン）を取付けている、M6 ボルト4カ所を外して、ハウジング（ファン）を外します。
- ・ワラズやゴミがたまっていれば、取り除いてください。
- ・逆手順でハウジング（ファン）を元通りに組付けてください。



ゴミがたまりやすい部分

**警告**

カバー内（エンジン冷却ファン付近）のワラクズやゴミは、作業終了後にカバーをはずし、点検し、取り除いてください。
※ 守らないと、火災を引き起こす原因となります。

8.2 油脂類の注入のしかた**警告**

油脂類の注入のときは、周囲に火気のない換気の良い場所で作業してください。
※ 守らないと、火災を引き起こす原因となります。



ガソリンの注入のときは、くわえタバコ、裸火照明等は絶対にしないでください。
※ 守らないと、爆発事故や火災を引き起こす原因となります。

給油箇所	容量	使用オイル	参照ページ
燃料タンク	2. 2ℓ	自動車用無鉛ガソリン	—
エンジン	0. 6ℓ	キセキ純正スーパーマルチエンジンオイル 10W-30 (SHCF)	P 3 8
エアクリーナ	0. 03ℓ	キセキ純正スーパーマルチエンジンオイル 10W-30 (SHCF)	P 4 0
ミッション	1. 0ℓ	キセキ純正ハイポイドギヤオイル (#90/GL4)	P 3 8
各ワイヤ類	適量	エンジンオイル又はギヤオイル 又は、スプレー式グリス等	P 3 6
テンションアーム支点			P 3 7



警告



点検・整備を行うときは、平たんで地面が固い場所で行なってください。

※ 本機が転倒し、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

点検・整備を行うときは、本機のエンジンを停止し、過熱部が冷めてから行ってください。

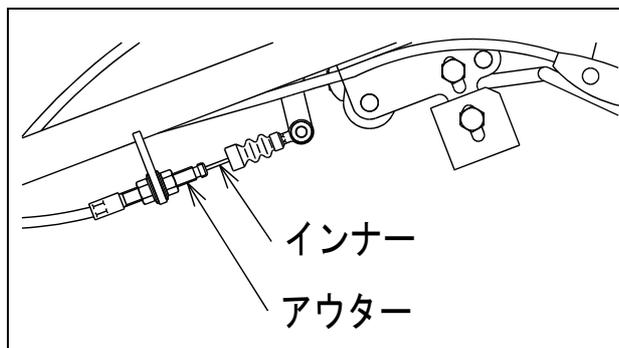
※ 守らないと、本機に巻き込まれたり、ヤケドをする恐れがあります。

取外したカバー類が、取付けられてあるか確認してください。

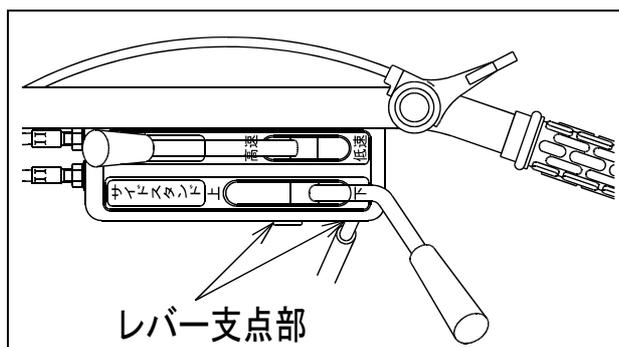
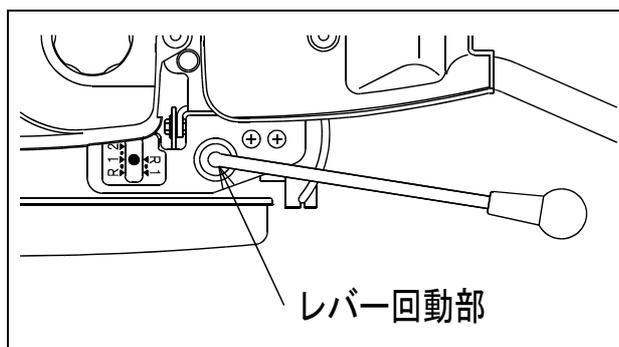
※ 守らないと、本機に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因となります。

8.2.1 各部の注油のしかた

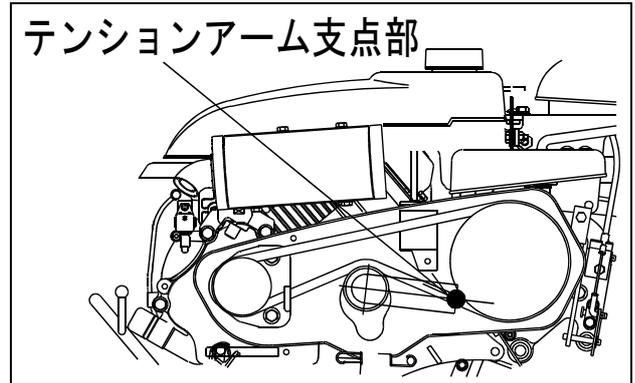
- 1 ワイヤ類は定期的に油さしやスプレーグリス等でアウターとインナーの間に注油してください。



- 2 レバーの回転部と支点部にも定期的に注油してください。



- 3 テンションアームの支点部にも定期的に注油してください。



8.3 各部のオイル点検・交換のしかた

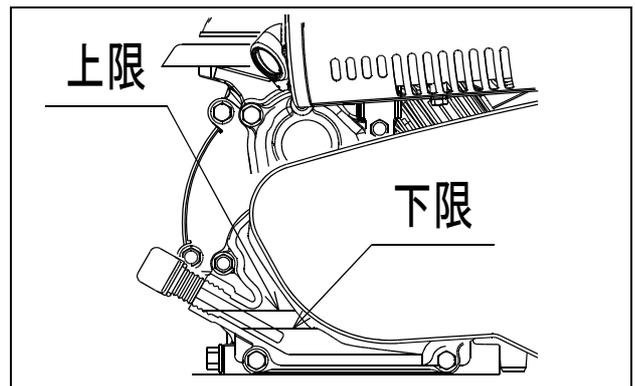
8.3.1 エンジンオイル

■点検・補給

- 1 オイルゲージを外して、オイルゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、オイルゲージの上限と下限にあるか調べます。
- 2 オイルゲージが「下限」以下の場合は「上限」まで補給してください。

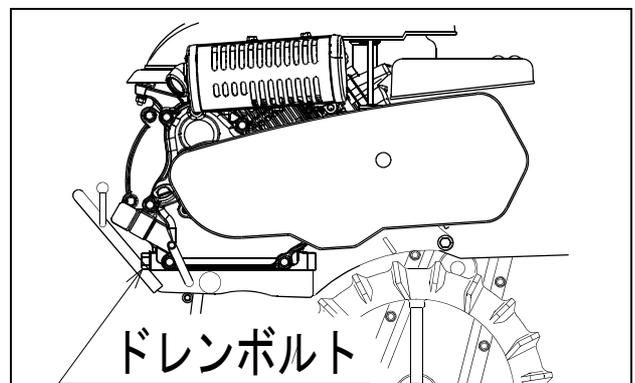
補足

- エンジンオイルは上限を超さないようにしてください。
- エンジンオイルは半セキ純正オイルを使用してください。(35ページ)



■交換

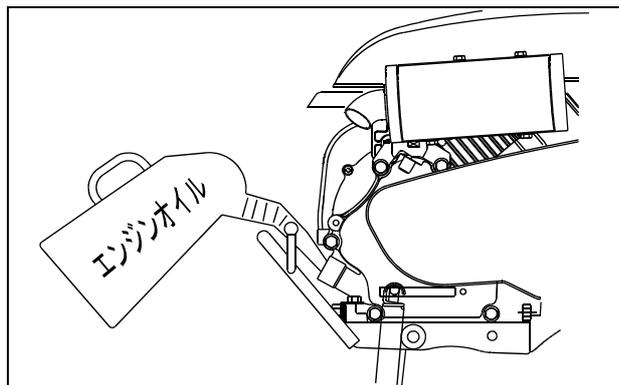
- 1 エンジン前部のドレンボルトを外して汚れたオイルを排出します。



- 2 給油口からエンジンオイルを規定量入れてください。(35ページ)

補足

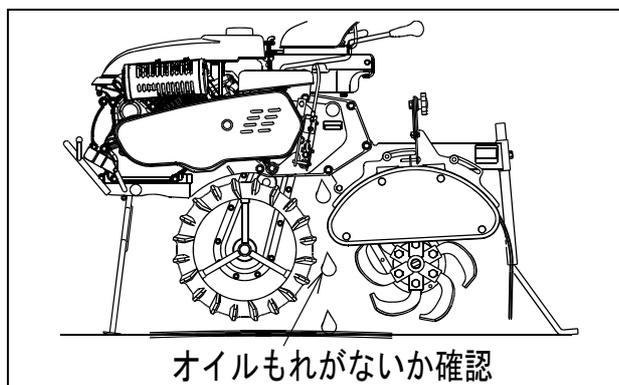
- 抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。
廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。
- 給油するときは、エンジンを必ず水平にしてください。



8.3.2 ギヤオイル

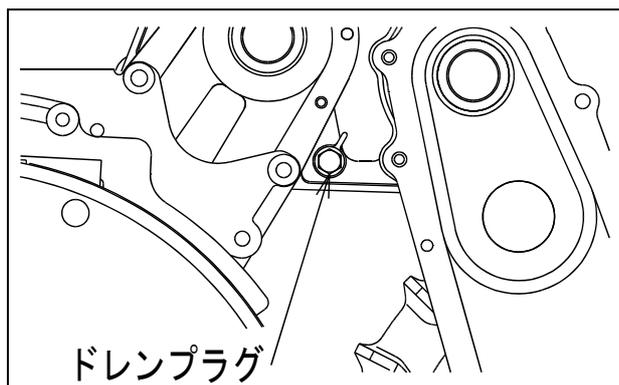
■点検・補給

- 1 点検は、本体下にオイルがもれていないか、確認してください。
- 2 また、ミッションケースよりオイルがもれていないか、調べてください。



■交換

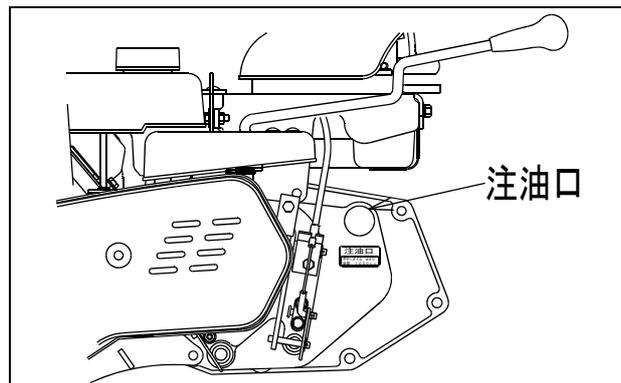
- 1 ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを抜き取ります。



2 注油口より、規定量（1ℓ）入れてください。

補足

- 抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。
廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。
- ミッションケースがあたたかいうちにオイルを抜くと容易に抜くことができます。



8.4 エンジン各部の掃除と点検

8.4.1 点火プラグの点検のしかた

1 ボンネットカバーをとめているトラス小ネジ（M6）と燃料キャップを外して、ボンネットカバーを外します。

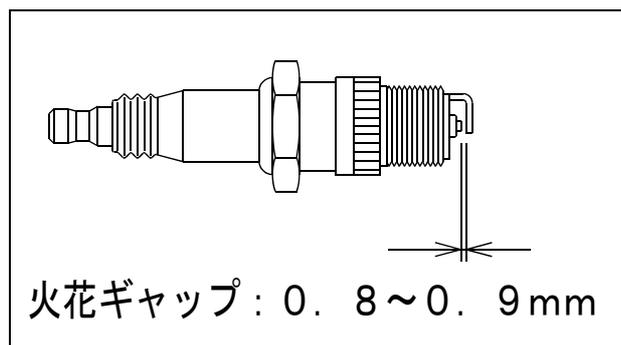
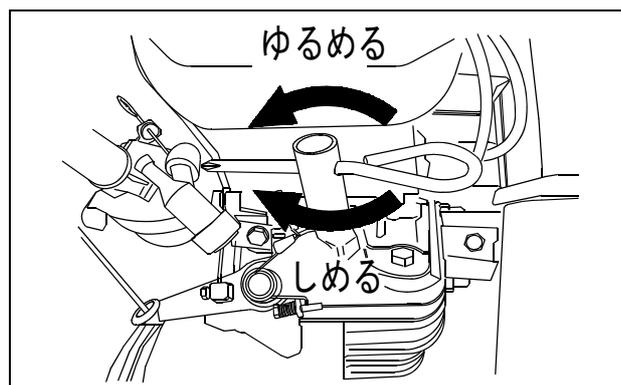
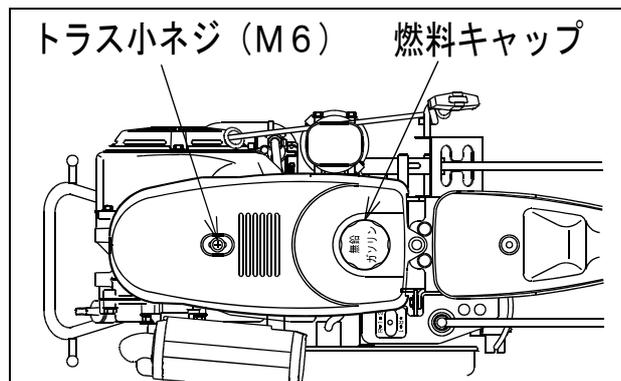
2 燃料キャップを必ず取付けてください。

3 プラグキャップを外し、付属のプラグレンチを使用して点火プラグを外してください。

4 電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで掃除したうえで、火花ギャップを0.8～0.9mmに調整します。

補足

- 標準点火プラグは、NGK製BPR5ESとなります。

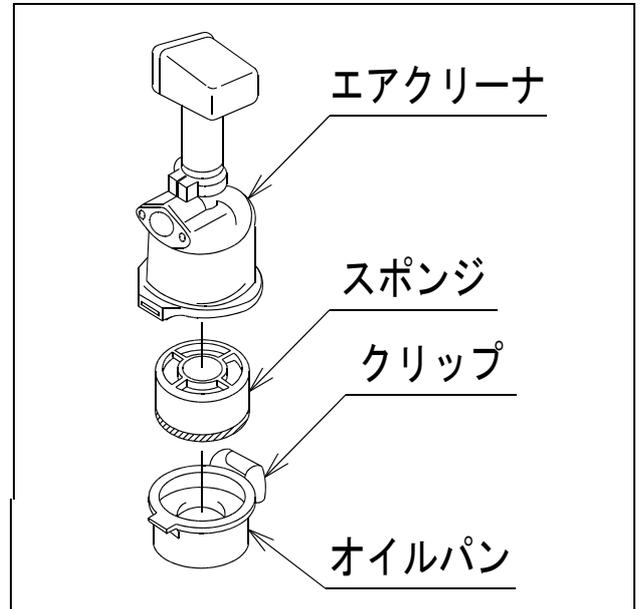


8.4.2 エアクリーナの掃除のしかた

- 1 クリップを外します。
- 2 スポンジを取外し、白灯油で洗ってエンジンオイルに浸します。
- 3 スポンジを硬くしぼって取付けてください。
- 4 オイルパンのホイルが砂やワラズ等で汚れている場合は、オイルパンを白灯油できれいに洗浄した後、エンジンオイルを規定量（0.03ℓ）入れてください。

補足

- エアクリーナは、いつもエンジンを快調にする装置です。汚れたまま使用すると、エンジンの出力低下や、故障の原因となります。



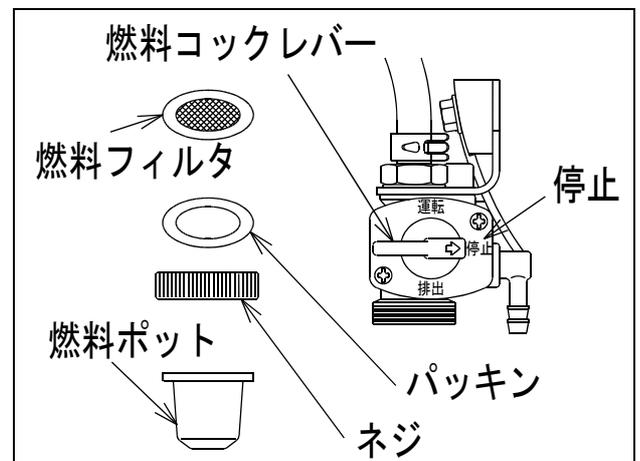
8.4.3 燃料フィルタの掃除のしかた

⚠ 危険



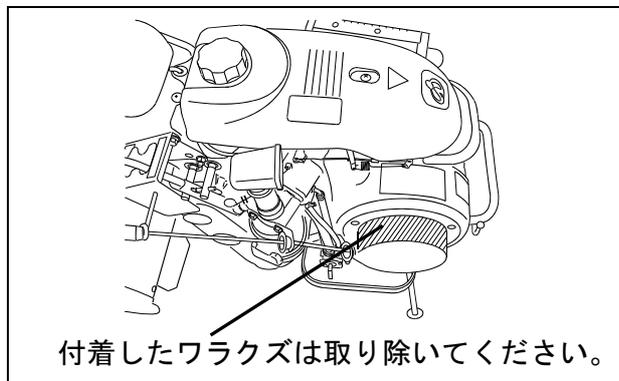
燃料コックが「運転」になったままで、フィルタを外すと、燃料が流れ出します。必ず、「停止」にしてください。
※ 守らないと、火災を引き起こす原因となります。

- 1 燃料コックレバーを停止の位置にしてください。
- 2 ネジをゆるめて外し、燃料ポットを外して、掃除してください。
- 3 燃料コックの上側に燃料フィルタがあります。それを外して掃除してください。
- 4 逆の手順で、組付けてください。



8.4.4 冷却風吸引口の掃除のしかた

- 1 リコイルスタータ部の吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。
- 2 ワラズや泥が付着しているときは、きれいに掃除してください。



8.5 ワイヤの点検と調整のしかた



警告



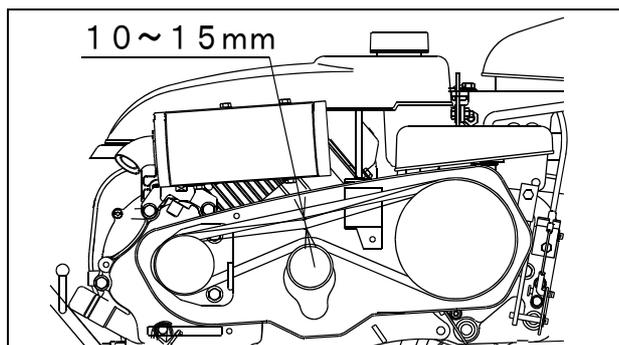
各部のワイヤを調整した後は、必ず正常に作動するか確認してください。

各部のワイヤの調整は、エンジンを停止してから行なってください。

※ 正常に作動しなかった場合、誤作動して、傷害事故を起す恐れがあります。

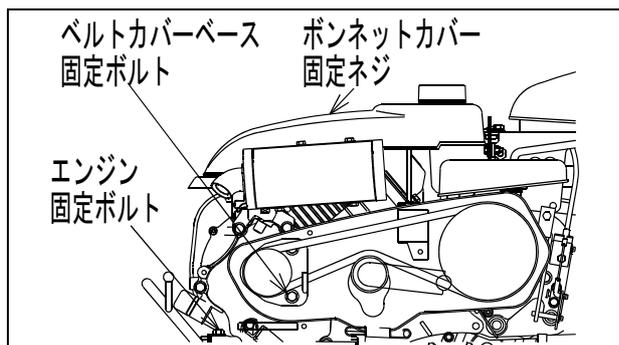
8.5.1 主クラッチレバーの調整のしかた

- 1 作業中にベルトのスリップがない程度に主クラッチのアジャスタで調整してください。
- 2 調整の目安は、主クラッチレバー「入」の位置でベルトの中央部を指で押して10～15mmたわむ程度です。



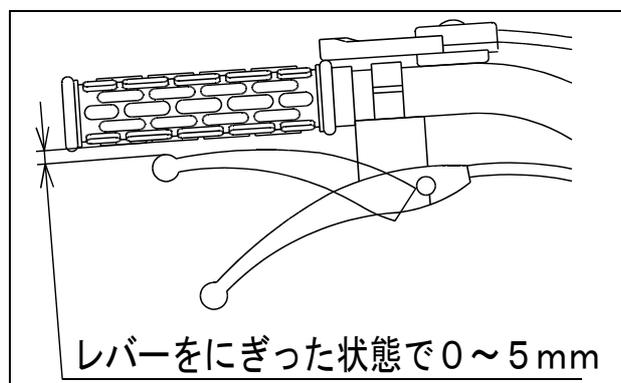
補足

- ワイヤのアジャスタの調整代がない場合は、エンジンを前に移動してください。エンジン固定ボルト2本とボンネットカバー固定ネジ1本をゆるめると移動できます。調整後は、確実にボルト、ネジを締付けてください。



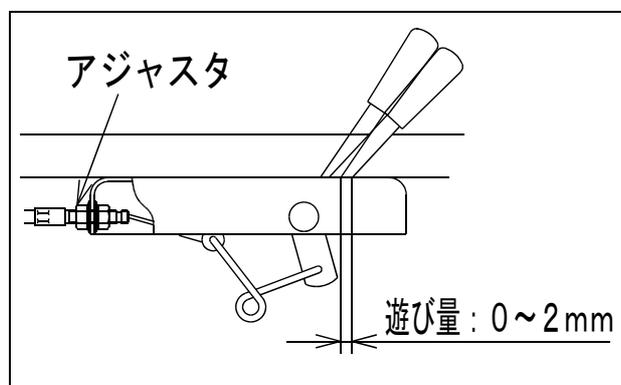
8.5.2 上下レバー、ロータリクラッチレバーの調整のしかた

各レバーは、一杯にぎった状態でグリップとレバーの「すきま」が0～5mmになるようアジャスタで調整してください。



8.5.3 車速副変速レバーの調整

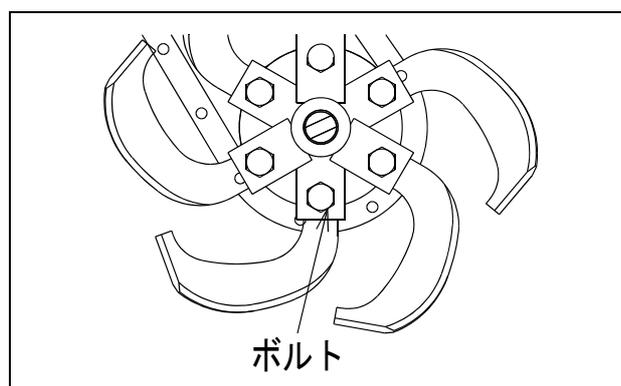
- 1 スタンドを立ててください。
- 2 車速副変速レバーを「低速」位置にして、本機の車輪（クローラ）を動かします。
- 3 レバーのガタが0～2mmになるようにワイヤのアジャスタ部で調整してください。



8.6 増締め力所

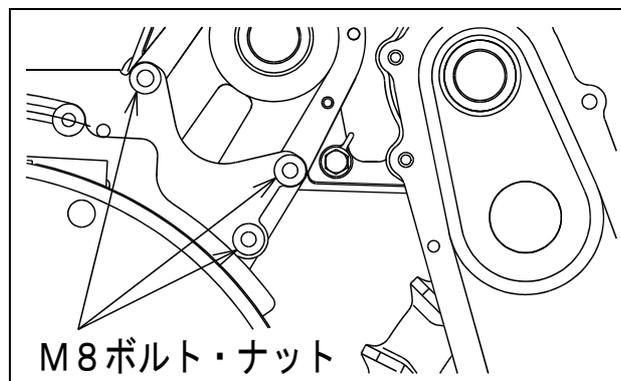
8.6.1 爪取付ボルト

- 1 爪取付ボルト、ナット12カ所「14」メガネレンチで増締めしてください。
- 2 爪ホルダ継ぎボルト、ナット4カ所「12」メガネレンチで増締めしてください。



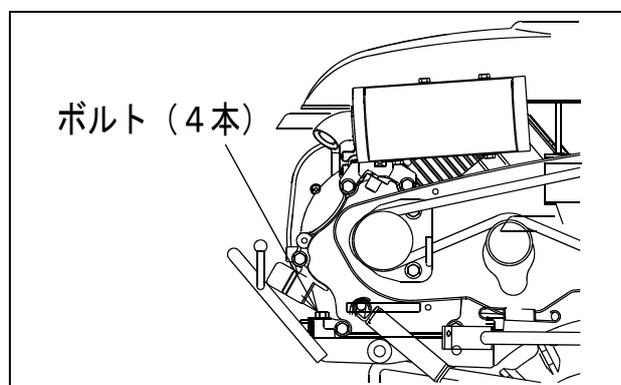
8.6.2 ロータリフレーム取付ボルト、ナット

- 1 ミッションケースを締めているボルトM8×85とM8×40、M8ナット3カ所を「12」メガネレンチで増締めしてください。



8.6.3 エンジン固定ボルト

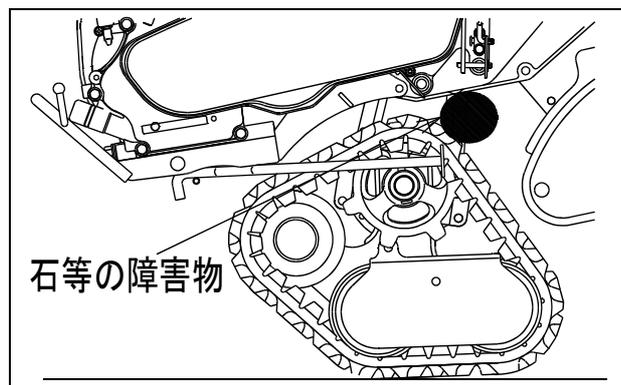
- 1 スタンドを立ててください。
- 2 エンジンをベースに取付けているボルト、ナット（M8）4カ所を「12」メガネレンチで増締めしてください。



8.7 走行部の点検と調整

8.7.1 トルクリミッタが作動したとき

- 1 作業中走行部（車輪、クローラ）に駆動がからなくなったら、すぐに主クラッチレバーを「切」にしてください。
- 2 エンジンを停止し、スタンドを立てます。
- 3 車軸、車輪、転輪周りの障害物を取り除いてください。
- 4 エンジンを再始動させ、アクセルレバーを「低速」にします。
- 5 主クラッチレバーをゆっくり「入」にします。
- 6 車軸が回転すれば、正常です。



補足

- この機械には、車軸に大きな力が加わった場合に機体保護のため、チェーンケース内にトルクリミッタが内蔵してあります。作業中に車軸の回転が止まることがあります。故障ではありません。上記要領で原因を取り除いてください。
- ピン（8×35）ロータピンが磨耗や変形した場合は、右記部品をご使用ください。

KMS600-S, 500-S	
部品コード	1106-250-012-0
品名	ピン（8×35）
個数	1個

KMS600-2W, 2WV KMS500-2WV	
部品コード	1106-250-012-0
品名	ピン（8×35）
個数	2個

KMS600-CW, CWV	
部品コード	1394-740-013-0
品名	ロータピン
個数	1個

8.7.2 クローラの点検と調整

(KMS600-CW, CWV)

補足

- 長時間使用していると、クローラが伸びて、スプロケットが飛んで音がすることがあります。その時は、下記の要領でクローラの張りを調整してください。

- 1 本機を平たんで地面の固い場所に移動して、センタスタンドを立ててください。
- 2 エンジンを停止してください。
- 3 テンションローラ固定ボルトを少しゆるめてください。
- 4 張りボルトのロックナットをゆるめて、張りボルト（M10）を締めてください。クローラのたるみが無くなった位置でロックナットを締込んでください。
- 5 テンションローラ固定ボルトを確実に締込めば、調整完了です。



8.8 その他の点検力所と交換のしかた



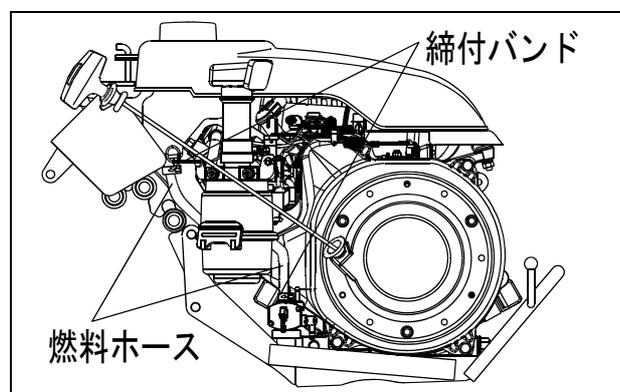
警告



燃料ホースは自然劣化したり、傷がある場合は新しい燃料ホースに交換してください。
※ ガソリンもれを起こし、火災の原因になります。

8.8.1 燃料ホースの点検と交換

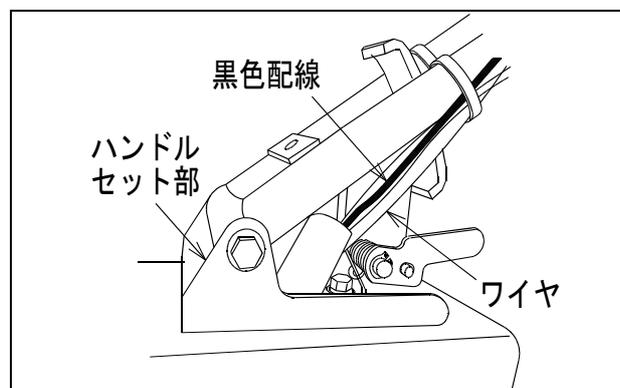
- 1 燃料ホースの傷や接続部の締付バンドのゆるみで、燃料もれが無いかなど、作業前後に点検してください。
- 2 異常がある場合は、「お買いあげ先」で修理してください。



8.8.2 電気配線の点検と修理

補足

- 電気配線が部品と接触してショートしたり、断線するとエンジンが始動しなくなったり、停止できなくなることがありますので、十分注意してください。
- 1 ハンドルセット部の黒色配線をワイヤで押さえられた状態になっていないか、またハンドルを上下したときに、押さええていないか確認してください。
 - 2 被覆のはがれや断線がある場合は修正して、ビニールテープで保護してください。





警告



ロータリを浮かして爪軸を点検する場合は、平たんで地面が固い場所で作業してください。

※ 守らないと機体が転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

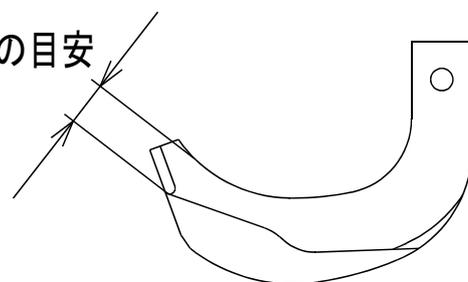
爪は向きと回転方向に注意して右下図のように取付けてください。

※ 守らないと、機械の破損や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

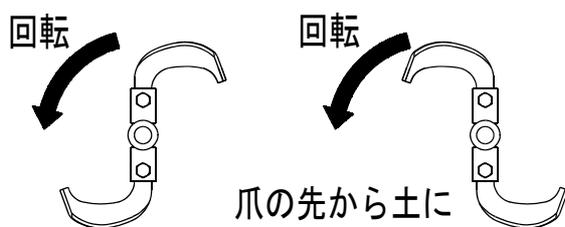
8.8.3 中耕爪の点検と交換のしかた

- 1 機体を平たんで地面が固い場所に移動させ、エンジンを停止してハンドルを持上げてロータリを浮かした状態にします。
- 2 中耕爪の損傷・曲がり及び摩耗を調べてください。また、取付部のガタがないことも調べてください。
- 3 爪の摩耗量が約半分をこえたら、交換時期です。曲がったり、折れたりしてからでは遅すぎますので、爪は早目にお取り替えください。

爪交換の目安



<正しい付け方> <間違った付け方>



爪の先から土にくい込む付け方は間違いです!

9. 格納時の手入れ

機械を長持ちさせるため、必ず手入れしてください。



警告



清掃する場合は、必ずエンジンを停止し、各部の回転が停止してから行なってください。
※ 守らないと、回転部にはさまれて、けがをするおそれがあります。

機体にカバーをする場合は、エンジン・マフラーが冷えてからかけてください。
※ ヤケドや火災の原因となります。

機体は平坦な場所を選び機械が倒れないようにスタンドを立ててください。
※ 思わぬ事故を引き起こす原因となります。

9.1 本機の手入れのしかた

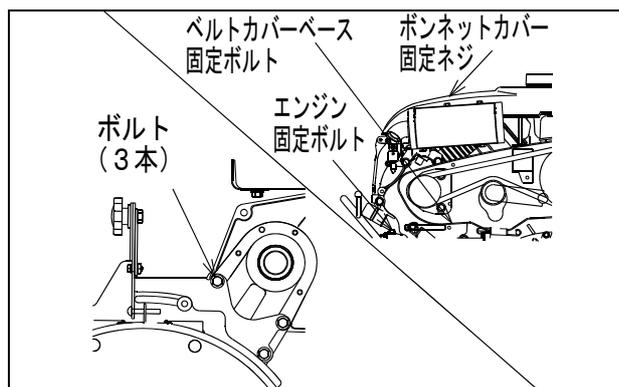
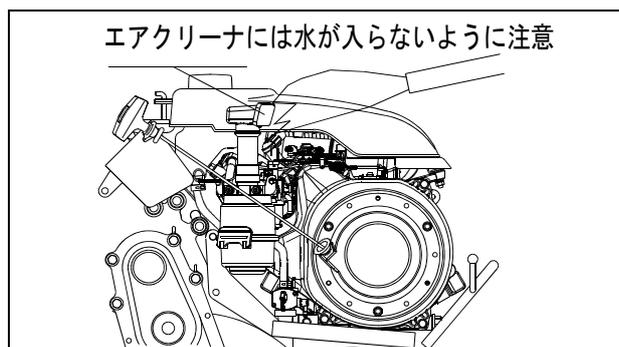
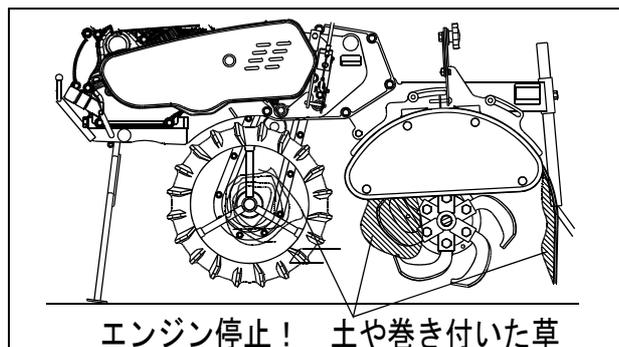
1 車輪やロータリに巻き付いた草等を取り除いてください。

2 車輪（クローラ）やロータリに付いた土は、水で洗い流してください。

3 エアクリーナに付いた土やホコリを落としてください。水洗いされる場合は、エアクリーナに水が入らないよう注意してください。

4 各部のボルト・ナットのゆるみや脱落がないかを確認してください。

5 各レバー支点、回動部に注油します。
(36～37ページ参照)



9.2 エンジンの手入れのしかた



警告



燃料の抜き取りは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

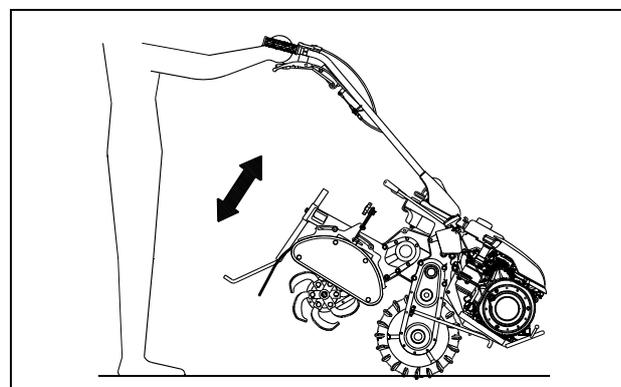
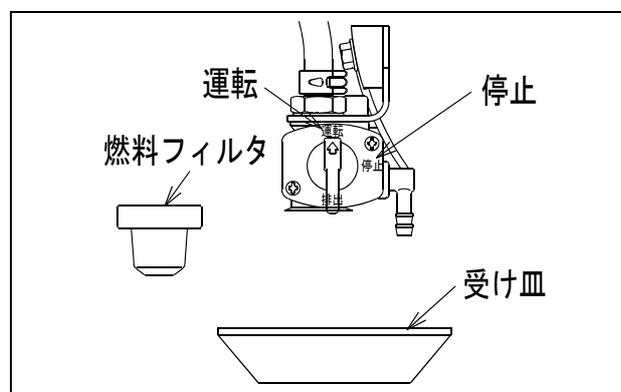
燃料がこぼれた時はきれいに拭き取ってください。

※ 守らないと火災を引き起こす危険があります。

- 1 燃料タンク内のガソリンをポンプなどを使用して、抜き取ってください。
- 2 燃料コックを「停止」にして、燃料フィルタをゆるめて外してください。また、燃料コック下に受け皿を用意してください。
- 3 この機械は燃料タンク後方が下がっているため、ガソリンを全部抜くには、何度かロータリを持ち上げて、前方にためてから燃料コックを「運転」に切り替える作業が必要です。
- 4 キャブレター内のガソリンは、燃料コックを「排出」にすることで抜き取れます。
- 5 リコイルスタータを引き、重くなった所で止めておきます。

補足

- 燃料を1ヶ月以上そのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが腐って次の始動が困難になります。



10. 不調時の診断と処置



警告



点検・整備をする時は、必ずエンジンを停止し、回転部が停止してから行なってください。

※ 回転部に手足や衣服が巻き込まれる原因となります。

点検・整備は、広くて、平たんで明るく、地面が固い場所で行ってください。

※ 思わぬ事故を引き起こす原因となります。

点検・整備で取外されたカバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※ 巻き込まれたり、はさまれたり思わぬ事故を引き起こす原因となります。

現象	原因	処置	参照ページ
エンジン が始動し ない (エンジ ンが始動 しにくい)	・燃料はありますか。	・ガソリンを補給してください。	P 3 5
	・エンジンスイッチが「停止」になっていませんか。	・エンジンスイッチを「運転」にしてください。	P 1 7
	・エンジンが冷えきっていませんか。	・チョークレバーを「閉」にして始動してください。	P 1 7
	・主クラッチレバーが「入」になっていませんか。	・主クラッチレバーを「切」にしてください。	P 1 7
	・点火プラグが悪くなっていますか。	・点検・掃除をして、必要なら交換してください。	P 3 9
	・燃料コックが「停止」になっていませんか。	・燃料コックを「運転」にしてください。	P 4 0
	・燃料に水が混じっていませんか。	・燃料フィルタを外して水を抜いてください。燃料コックを「排出」にしてキャブレター内の燃料を抜いてください。	P 4 0
エンジ ンの力 がない	・エアクリーナにゴミがつまっていますか。	・スポンジとオイルパンを取り外し、きれいに掃除するか、新しいスポンジに交換してください。	P 4 0
	・エンジンオイルが少なくなっていますか。	・エンジンオイルの補給をしてください。オイルが古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	P 3 7
	・ベルトを張りすぎていませんか。	・適切なベルトの張りに調整してください。	P 4 1
	・エンジンの回転が上がりますか。	・ワイヤやアクセルレバーの取付け位置が動いている場合は、元の位置に固定してください。	P 1 2
	・エンジンの圧縮はありますか。	・点火プラグおよびシリンダヘッドボルトを締付ける。ピストンリングの摩耗も考えられますので、「お買いあげ先」に相談してください。	P 3 9

現象	原因	処置	参照ページ
エンジンが自然に止まる	・燃料がなくなっていないですか。	・ガソリンを補給してください。	P 3 5
	・エアクリーナにゴミが付いていませんか。	・オイルパンとスポンジを洗浄し、新しいオイルを入れて組直してください。スポンジが古くなっていれば交換してください。	P 4 0
	・エンジンオイルが少なくなっていないですか。	・エンジンオイルを補給してください。オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと交換してください。	P 3 7
	・エンジンの電気配線が傷んでいませんか。	・ビニールテープで補修してください。	P 4 5
	・リコイルスタータを引いたとき、エンジンは回りますか。	・回らなかつたり、重い場合は、「お買いあげ先」に相談してください。	—
	・ロータリ部に草やワラが巻き付いたり、土がたまっていますか。	・エンジンを停止して、草やワラ、土を取り除いてください。	P 4 7
振動が多い	・エンジンが振れているのではないですか。	・エンジン固定ボルトを締め直してください。	P 4 3
	・ハンドルの振動が多いのではないですか。	・強く振れていたら、「お買いあげ先」に相談してください。	—
走行しない	・ベルトが伸びてスリップしていませんか。	・ベルトの張りを調整してください。	P 4 1
	・車輪やクローラに石等がかみ込んで、トルクリミッタが効いているのではないですか。	・エンジンを停止し、原因を取り除いてください。	P 4 3
	・チェンジカバーがズれて「R・1・2」の表示がズれていませんか。	・チェンジカバーを元の位置に戻してください。	P 1 2
車速副変速が切換えできない	・車速副変速レバーのワイヤが伸びていませんか。	・ワイヤのアジャスタで調整してください。	P 4 2
	・主クラッチレバーが「入」の状態でも車速副変速レバーを切り替えていませんか。	・必ず主クラッチレバーを「切」にして操作してください。	P 1 3

11. 付表

11.1 主要諸元

名称		KMS600					KMS500		
型式		KMS600					KMS500		
区分		S	2W	2WV	CW	CWV	S	2WV	
機体寸法	全長 (mm)	1485							
	全幅 (mm)	645							
	全高 (mm)	960							
機体質量 (重量) (kg)		70	74	76	75	77	66	72	
エンジン	型式名	FJ180D					FJ130D		
	種類	空冷4サイクル1気筒OHVガソリン							
	総排気量 (L {cc})	0.179 {179}					0.133 {133}		
	定格出力/回転速度 (KW {PS} /rpm)	3.8 {5.2} /3600 (最大4.0 {5.4} /4000)					2.8 {3.8} /3600 (最大3.0 {4.1} /4000)		
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン							
	始動方式	リコイルスタータ式							
	燃料タンク容量 (リットル)	2.2							
	エアクリーナ	湿式 (オイルバス)							
走行部	変速段数 (段)	前進4, 後進2 (ハンドフルターン前進2, 後進2)							
	メインクラッチ	ベルトテンション							
	操作方法	指クラッチレバー							
	走行形式	ゴムラック 1輪	ゴムラック 1輪2輪兼用		ゴムローラ		ゴムラック 1輪	ゴムラック 1輪2輪兼用	
	車輪径 or クローラサイズ (mm)	φ330 ×幅80	φ330×幅 1輪100, 2輪136		110(幅) ×60(ピッチ) ×17(リンク)		φ330×幅80	φ330×幅 1輪100, 2輪136	
	走行速度 (km/h)	前進1速	1.21			1.08		1.21	
		前進2速	1.67			1.51		1.67	
前進3速		2.99			2.63		2.99		
前進4速		4.20			3.67		4.20		
後進1速		1.21			1.04		1.21		
後進2速		1.67			1.40		1.67		
ロータリ	駆動方式	センタードライブ (チェン)							
	変速段数 (段)	正転2, 逆転2							
	耕うん幅 (mm)	160, 240, 290, 350		230, 340	160, 240, 290, 350	230, 340	160, 240, 290, 350	230, 340	
装備	車軸トルクリミッタ	○	○	○	○	○	○	○	
	手元ロータリクラッチ	○	○	○	○	○	○	○	
	ワンタッチ停止スイッチ	○	○	○	○	○	○	○	
	始動時安全装置	○	○	○	○	○	○	○	
	ロータリカバー前後スライド	○	○	○	○	○	○	○	
	Vカットロータリ			○		○		○	
	分割式爪ホルダ	○	○	○	○	○	○	○	
リモコンスタンド	○	○	○	○	○	○	○		
安全鑑定適合番号		申請中							

11.2 付属品一覧表

この商品には、次のものが付属しています。

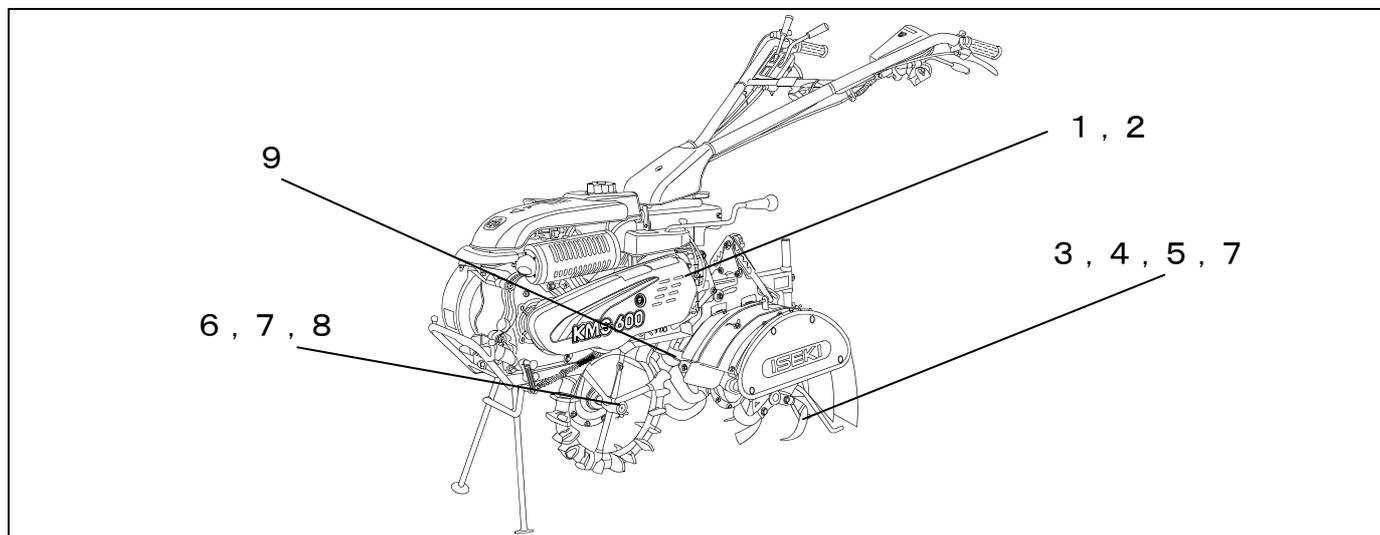
	品名	付属個数	備考
説明書 保証書	1. 取扱説明書	1	
	2. 保証書（ISEKI）	1	
	3. エンジン取扱説明書	1	
	4. ハンドル取付要領書	1	ハンドル組立
	5. 納入前点検チェックシート	1	
	6. 納入指導チェックシート	1	
工具	1. プラグレンチ	1	
	2. ⊕ ドライバ	1	

11.3 推奨潤滑油一覧表

推奨潤滑油

区分	メーカー名	商品名	出荷時充填済
一般グリース	エネオス (有名メーカーのリチウム系)	パイロノックユニバーサル2	○
エンジンオイル	Ⓢセキ	スーパーマルチ エンジンオイル (10W-30)	×
ギヤオイル	Ⓢセキ	ハイポイドギヤオイル (#90)	×

11.4 主要消耗部品



No.	品名	注文コード	対象型式	個数/台
1	ベルト (Vコグ36)	1122-215-012-0	KMS600	1
2	Vベルト・SA-36レッド	V816-200-036-0	KMS500	1
3	ナタ刃 (SX) SET	1106-765-210-0	KMS600, 500 (V型除く)	1
4	爪ボルトSET	1106-765-220-0	KMS600, 500	1
5	ナタ刃 (B12) SET	1394-742-200-1	KMS600, 500 (V型)	1
6	ピン (8×35)	1106-250-012-0	KMS600, 500	S : 1 2W : 2
7	ロータピン	1394-740-013-0	KMS600CW, CWV	1
8	ホイール用ヘアーピン	1305-241-001-0	KMS600, 500	2W : 2 その他 : 1
9	スクレパ	1155-256-011-0	KMS600, 500	2W : 1

11.5 注文部品の紹介

注文部品コード	特長	対象型式
タイヤSET 1106-251-200-0	空気入り輪タイヤ	KMS600-S KMS500-S
残耕処理刃SET 1106-773-200-1	標準チェーンケースに装着する残耕処理刃	KMS600-S, 2W, CW KMS500-S

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

取扱い方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、
お買いあげ先へご相談ください。

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

購入先名	担当者名	電話 () -
御購入日 平成 年 月 日	型式	区分
車体番号 (本機番号)	機関番号	同時購入作業機

井関農機株式会社

ISEKI & CO., LTD.

営業本部 技術ソリューションセンター 〒300-2346 茨城県つくばみらい市青木560 ☎ 0297-58-5131
部品事業部 〒799-2692 愛媛県松山市馬木町700 ☎ 089-979-4114

販売会社

(株) 中セキ北海道 〒068-0014 北海道岩見沢市東町2条7丁目1004番地1 ☎ 0126-22-3388
(株) 中セキ東北 〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2 ☎ 0223-24-1111
(株) 中セキ関東 〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町大字阿見4818 ☎ 0298-87-6131
群馬中セキ販売(株) 〒379-2154 群馬県前橋市天川大島町116 ☎ 0272-63-3211
(株) 石川商会 〒289-2516 千葉県旭市口-1247 ☎ 0479-63-3115
柳田中セキ販売(株) 〒243-0806 神奈川県厚木市下依知250-2 ☎ 046-244-2723
(株) 中セキ信越 〒950-1237 新潟県新潟市南区北田中字堀留780-12 ☎ 025-362-1161
(株) 中セキ北陸 〒920-0806 石川県金沢市神宮寺2丁目20-8 ☎ 076-252-5246
(株) 中セキ東海 〒444-1221 愛知県安城市和泉町大北61 ☎ 0566-92-7221
三重中セキ販売(株) 〒514-0821 三重県津市垂水字中境499番地 ☎ 059-225-2811
(株) 中セキ関西 〒675-0103 兵庫県加古川市平岡町高畑348-1 ☎ 079-424-5357
奈良中セキ販売(株) 〒635-0014 奈良県大和高田市三和町17-29 ☎ 0745-22-8771
(株) 中セキ中国 〒739-0024 広島県東広島市西条町御園宇727-2 ☎ 082-423-9881
(株) 中セキ四国 〒799-3101 愛媛県伊予市八倉120-1 ☎ 089-983-5677
(株) 西岡商会 〒773-0016 徳島県小松島市中郷町前田105-1 ☎ 0885-32-3339
(株) 中セキ九州 〒861-2212 熊本県上益城郡益城町平田深迫2550 ☎ 096-286-0303



陸内協排ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。